平和堂CSR報告書 2019

HEIWADO CSR REPORT

平和堂グループの価値創造

平和堂は経営理念の「5つのハトのお約束」を
CSR(企業の社会的責任)活動の重要課題と位置付け、
ステークホルダー※1の皆様に価値をご提供し、ともに持続可能な成長を
果たしていくために、さまざまな取組みを行っています。

主な社会的課題

- 食の安全安心：残留農薬、食品偽装など
- 少子高齢化：買い物弱者の増加など
- 環境負荷：温室効果ガス排出、生物多様性など
- 責任ある調達：サプライチェーンの人権問題など
- 消費者の自立：消費者事故・トラブルの増加、複雑化など
- ダイバーシティ※2：男女共同参画、多様な働き方など

ステークホルダーのニーズと期待

- 従業員：個性を尊重し、能力を最大限に活用
- 監督官庁：関係法令の順守
- 株主：利益の還元
- 地球環境：環境負荷の低減
- 地域コミュニティ：地域活性化
- お客様：よい品・よいサービス
- お取引先：価値の共有・機会の提供

リスク及び機会

- 商品を通じた環境貢献
- エネルギー資源の枯渇
- 地球温暖化の進行
- 廃棄物の削減とリサイクル
- 自然環境の荒廃と保全

平和堂の強み

- 滋賀を中心とした強固な地盤
- 平和堂ファンのお客様
- ユニークなサービス
- 生産農家との協力体制
- 現場の声を活かした商品開発力
- 社員のモチベーション

5つのハトのお約束

平和のハト
地域社会のためにつくします
- 資源を大切にし環境保全に貢献します
- 地域とのふれあいを大切にします
- 次代を担う子どもたちの成長を応援します

奉仕のハト
お客様へのサービスを第一とします
- 笑顔での応対を心がけます
- お客様の「不」の解消に努めます
- 誰にでもご利用いただきやすいお店をつくります

創造のハト
よい品を販売します
- 価値の高い商品をご提供します
- 地域の農水産業や産業を応援します
- 環境に配慮した商品の普及に努めます

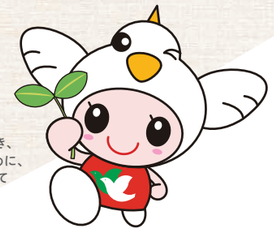
友愛のハト
みんなの幸せを築きます
- 常に問題意識を持ち、改善に取り組みます
- 差別や偏見のない平等な職場にします
- 気持ちよく働ける環境をつくります

感謝のハト
お取引先との信用を重んじます
- 商品の安全や品質に責任を持ちます
- 平等・公平なお取引を行います
- お取引先様や株主の皆様を大切にします

コーポレート・ガバナンス

社 是
商業を通じて豊かな暮らしと文化生活の向上に貢献し、
より多くの消費者になくてはならない店になる

平和堂イメージキャラクター
「はとっぴー」
多くのお客様により広く、平和堂の活動を知っていただき、末永く愛される会社となるために、平和堂イメージキャラクターとして活動しています。



平和堂グループ憲章

全従業員の物心両面の幸福(しあわせ)を追求するとともに、お客様と地域社会に貢献し続ける企業となる

※1 ステークホルダー：株主や従業員、お客様、取引先、地域社会など、企業に対して影響を与え、利害関係を持つ組織や個人。
※2 ダイバーシティ：性別、国籍、出身地、年齢、価値観、信条など、この社会に生きる人々の多様性。

編集方針

平和堂のCSR活動に関する報告も今年で20回目となりました。本書では、平和堂の企業理念である「5つのハトのお約束」を重点課題と位置づけ、これに沿った編集内容としています。

また、巻頭特集では2018年度に会社全体として推進した、「ひと」「まち」など様々な「健康」についての取組みをレポートしています。

本報告書を通じて、当社のCSR活動に対する理解を深めていただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。

報告対象組織
平和堂本部および全店舗（152店舗）
※平和堂本部および全店舗(152店舗)を基本とし、連結子会社を含む場合は本文に記載しています。

報告対象期間
2018年度
(2018年2月21日から2019年2月20日まで)
※ 関連する報告で一部この期間が前後している場合もあります。

参照ガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」

発行日
2019年5月(次回発行予定2020年5月)
※ 2018年度のCSR活動を報告するにあたり、データを精査、これを修正した結果、2017年度の報告書と実績数値が異なっている項目があります。また、端数処理のため、合計が合わない項目があります。

レポートに関するお問い合わせ
株式会社平和堂 総務部 CSR推進室
〒522-8511 滋賀県彦根市西今町1番地
TEL(0749)23-3150 FAX(0749)23-3118
URL http://www.heiwado.jp/

もくじ

平和堂グループの価値創造 …… 1
トップメッセージ …… 3
巻頭特集
地域の健康のために
～平和堂ならではの地域密着ライフスタイル総合(創造)企業を目指して～ …… 7
平和堂のCSR活動
奉仕のハト …… 11
創造のハト …… 15
感謝のハト …… 19
友愛のハト …… 23
平和のハト …… 29
CSR活動一覧 …… 41
平和堂グループ プロフィール …… 43
平和堂財団の活動 …… 45
CSRマネジメント …… 47
GRIガイドライン対照表 …… 49
読者とのコミュニケーション …… 53
第三者意見 …… 54

「地域共創」をキーワードに地域密着ライフスタイル総合(創造)企業の実現を推進していきます

「地域密着ライフスタイル総合(創造)企業」を
掲げた2018年度。
その取組みと、未来に向けた
平和堂の姿や地域への想いを語りました。

「地域共創」がキーワードとなった2018年度を振り返って。

2018年は、2月の北陸豪雪をはじめ、平和堂の出店エリアにおいて豪雨や台風、地震といった自然災害が多発し、店舗運営のあり方を改めて見つめ直す機会を得た年でした。被災地域のお客様のために、いかに早く営業を再開させるかを考え、これまでも体制を整えてまいりましたが、商品の供給や輸送に関わるお取引先様への配慮、そして社員の安全を含め、総合的に対応することの重要性を再認識することとなりました。こうした教訓を生かし様々な災害において、本部と店舗との連絡を密に取り、状況に応じた最善かつ臨機応変な対応がとれる体制を実現していきます。

▲2019年2月にオープンしたフレンドタウン交野では、地域ならではのイベントを数多く開催。

PROFILE

株式会社平和堂 代表取締役社長兼COO 営業統括本部長

平松 正嗣（ひらまつ まさし） 1957年11月19日 生まれ

1981年4月 ソニー㈱入社
1997年7月 ㈱スクウェア(現:㈱スクウェア・エニックス)入社
2010年1月 ㈱平和堂入社顧問
2010年5月 当社常務取締役社長補佐兼経営企画部管掌
2011年2月 当社常務取締役経営企画本部長
2012年2月 当社常務取締役店舗営業本部長
2013年2月 当社常務取締役営業統括本部長
2015年5月 当社専務取締役営業統括本部長
2017年5月 当社代表取締役社長兼COO兼営業統括本部長

滋賀県内全店舗をビワイチの「サイクル・サポートステーション」として登録。活動推進のため、寄付活動も行っています。

平和堂の根幹となる「魅力あるショッピングセンターづくり」については、「発信」をキーワードに様々な施策を実践してまいりました。地域性や季節を感じる品揃えや装飾はもちろんのこと、1年間を通じ店全体でのイベント開催を進めました。イベントは、店として企画したものだけではなく、学校のクラブや地域活動の発表の場としても活用が広がり、幅広い世代のお客様に楽しんでいただける店舗運営を推進しています。

また、自治体や他企業とも連携し、その地域が持つ独自の魅力を発信することにも取り組みました。「ビワイチ」（詳しくはP38を参照）などの取組みは、まさに平和堂の店舗が根ざしている地域の魅力を価値へと変えて、お客様にお届けするものです。こうした取組みを通じて、地域の方々に今まで以上に平和堂を身近に感じていただきたいと考えております。

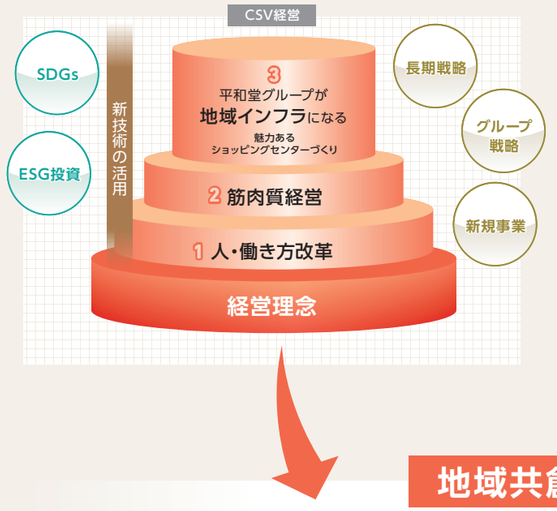
地域に根ざした取組みを進めることが、長期ビジョン「地域密着ライフスタイル総合（創造）企業」への想いに通じている。

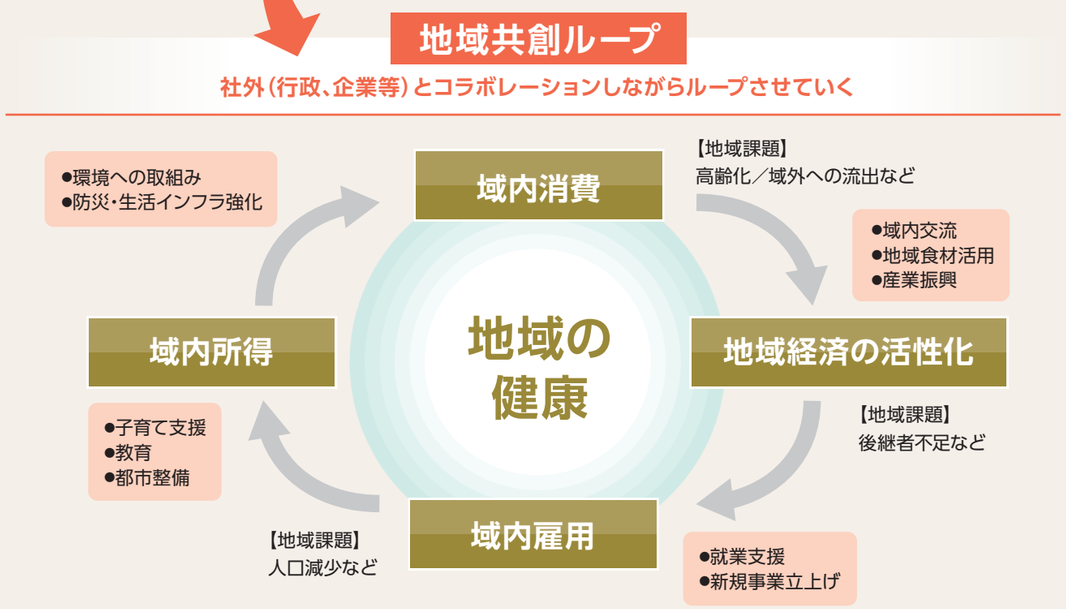
地域密着のライフスタイル総合（創造）企業の実現には、魅力に感じていただける様々な商品、サービスをお客様に届けたいという想いと、地域の皆さんと一緒に地域の元気を創っていく「地域共創」の想いが大切だと思っています。「地域を元気に」というのは、言い換えれば「地域の健康」つまり、住民の皆様の心身の健康だけではなく、地域活動の活性化や環境への配慮を含め、地域全体の健康を意識した取組みです。

例えば、人の健康という面では、2018年11月にオープンした「フレンドマート健都店」（詳しくはP09を参照）において、これまでの店舗で徐々に進めてきた「健康」を切り口とした品揃えや食育活動の推進だけでなく、社員一人ひとりが、積極性を持ってお客様の健康増進の一助を担えるようになりたいと思っています。そのために、健康に関する専門知識や提案力を高めていくことで、お客様の健康に多面的にアプローチしてまいります。

また、地域活動の活性化という面では、「域内雇用」から「域内所得」の増進、「域内消費」を促すことで「地域経済の活性化」へ繋がるという、経済面での「地域共創ループ」を好循環させていくことで、リージョナルカンパニーとしての役割を担ってまいります。

■長期ビジョン達成に向けての戦略イメージ





▲2018年11月にオープンした「フレンドマート健都店」。クッキングサポートをはじめ、お客様に「健康」のアドバイスを積極的に行っています。

社員一人ひとりの成長とチームワークの向上によってつくる「チーム平和堂」。

新しい時代への対応、また人材の確保が非常に厳しくなってきている現状を踏まえ、「新人事制度構築プロジェクト」をスタートしました。これは正社員に限らず、パートナー社員やアルバイト社員を含めた、平和堂で働く全ての社員の「一体感の醸成」を目指した人事制度の見直しプロジェクトです。それに加えて、「本部業務改革推進プロジェクト」、「営業業務改革推進プロジェクト」、「シェアードサービスセンター推進プロジェクト」といった、現行ビジネス基盤の強化にも積極的に取り組み、社員一人ひとりの成長、チームワークの向上によって、より魅力的で強力な「チーム平和堂」を作り上げてまいります。

平和堂が100年企業を目指すために。

これまでお話しした各取組みを、スピード感を持って実践していくためには、社員間のコミュニケーションをより進化させていくべきと考えています。

特に新しい本部（HATOC）は、コミュニケーションが取りやすいオフィス空間であることから、部門を跨いでの意見交換もしやすくなり、そこから生まれたアイデアも徐々に成果が見え始めています。また、仕事上のコミュニケーションだけでは、人と人との距離が近づきにくく、前向きな議論が活発化しにくいと感じていたことから、人と人とのコミュニケーションの場として、社内SNS※コミュニケーションサイトを開設しました。様々な立場の社員が自由に発信できる場として、2019年4月から運用を始めています。できれば全社員に活用してもらい、拠点や勤務時間、年代などでのすれ違いを解消した今の時代のリアルな繋がりを創出していきたいと思っています。

このような取組みを通しオープンな職場環境を実現することで、社員一丸となって、100年企業へ向けて、お客様のため、地域のために平和堂ならではの価値を提供していきたいと思っています。

※SNS：ソーシャルネットワーキングサイト。インターネットを介してコミュニティを広げるためのツール。Facebook、LINEなどが広く普及しています。

巻頭特集

地域の健康のために

～平和堂ならではの地域密着ライフスタイル総合（創造）企業を目指して～

平和堂グループは、地域密着のライフスタイル総合（創造）企業として、安全で安心で、楽しく健康的な生活の創造のため、様々な取組みを行っています。地域の健康の実現のために、誰もが笑顔に暮らせるまちづくりを目指して、グループ全体での取組みを詳しくご紹介いたします。

3 すべての人に健康と福祉を

「美と健康」をテーマとした体験・相談型イベント

「美と健康フェア」「ハッピーライフフェア」開催

平和堂では、地域の皆様が「健康寿命の延伸」を目指し活力のある生活ができるよう、イベントを通して健康増進を提案しています。その一環として、お客様の「美」と「健康」の様々なお悩みにお応えするイベントを開催しており、2018年度は5会場で開催しました。

また、このイベントでは自治体や地域団体にも参画いただき、地域ごとの健康課題解決への啓発にも取り組んでいます。2018年度は新たに草津市、多賀町、看護協会と連携を取り、現在は6市町・1団体の皆様にご協力いただいています。

参加者数（5回開催）約4,000名 2018年度実績

▲美容と健康の体験会・相談会に数多くのお客様が参加されました

■活動概要（2018年）

開催場所	開催日
アル・プラザ草津	3月30日～ 4月 1日
アル・プラザ宇治東	5月25日～ 5月26日
アル・プラザ京田辺	8月17日～ 8月18日
ビバシティ平和堂	9月 7日～ 9月 9日
アル・プラザ水口	10月 5日～10月 6日

■協力いただいている自治体・地域団体

参加市町	自治体・地域団体	健康イベント参画内容
京都府（宇治市）	健康生きがい課	宇治市オリジナル体操（うー茶んサンバDE体操）運動啓発
	う一茶ん連絡会	紙のおべんとうづくり・栄養・食生活の啓発
		カムカムチェック・口腔の健康啓発
京都府（京田辺市）	健康推進課	ニュースポーツ体験による身体運動の啓発（囲碁ボール・カローリング）
	スポーツ推進課	
滋賀県（彦根市）	健康推進課	歩幅チェックによる身体運動の啓発
	ひこね元気クラブ21	味覚チェック・野菜計量体験による栄養・食生活の啓発
	医療福祉推進課	彦根市オリジナル体操（金亀体操）運動啓発
滋賀県（甲賀市）	すこやか支援課	健康相談会、ロコモチェックでの手軽な運動紹介
	スポーツ推進委員会	甲賀市オリジナル体操（世界にひとつだけの体操）運動啓発
滋賀県（草津市）	健康増進課	食育啓発
	健康推進委員	草津市オリジナル体操（くさつ健康はつらつ体操）運動啓発
滋賀県（多賀町）	福祉保健課	健康相談会
	税務住民課	滋賀県健康推進アプリの使用啓発
	健康推進協議会	野菜計量体験による栄養・食生活の啓発
滋賀県	看護協会	血糖値・血圧測定、ストレスチェック
	健康寿命推進課	健康的な生活習慣の啓発

滋賀県との連携

「健康しがマルシェ2018」開催

全国平均寿命で滋賀県が男性1位、女性4位となったことに関連し、ビバシティ彦根において「健康しがマルシェ2018（主催：滋賀県）」が2018年11月18日に開催されました。身体にいいものや、身近な運動などを紹介するブースの出展、三日月滋賀県知事とお笑いコンビ・ファミリーレストラン、平松社長によるトークショーなどが行われました。滋賀県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現に向け、滋賀県と連携しながら健康に関する取組みを行っていきます。

来場者数 約200名 2018年11月開催

▶「身体にいい」商品を陳列

◀（中央）三日月滋賀県知事、平松社長

地元医療機関との連携

地域の健康度UPの取組み（平和堂グリーンプラザ店）

グリーンプラザ店のクッキングサポートでは、地域の健康づくりに貢献する目的で地元診療所の協力のもと「健康相談会」を実施しています。2か月ごとにテーマを設定し、最初の月は院長の講義を、翌月は診療所の管理栄養士と考案した食事メニューをクッキングサポートで提案しています。

これまで骨粗しょう症予防や熱中症予防、減塩生活、ダイエットと日頃気になる健康をテーマに簡単な体操も組み合わせて実施し、多くのお客様にご参加いただきました。

▲講義風景

▲食事メニュー提案風景

参加者数（4テーマ開催）84名

[VOICE] メンバーの声

地域の皆様のお役に立ち、楽しんでいただきたい。

地域の方々と協力しながら食を通じてふれあい、地域の皆様の健康に役立つお仕事ができました。今後も地域の皆様がいつまでも健康でいられるようにサポートしていけたらうれしいです。

グリーンプラザ店 戸田 千恵

健康イベント

「MANPO de ウォークラリー」開催（平和堂坂本店）

2018年12月にリニューアルオープンを迎えた坂本店では、多層階という特徴をいかしてウォークラリーイベント「MANPO de ウォークラリー」を始めました。60歳以上のお客様を対象に、チェックポイントでスタンプを押しながら店内を歩いてもらい万歩計の歩数を蓄積。毎月15日と月末に集計し、歩数に応じて景品がもらえるという企画で、定期的にウォーキングすることでイキイキ元気に過ごしてもらうことを目的としています。

▲スタンプポイント

地域の皆様の健康をサポート

「エニタイムフィットネス」オープン（平和堂グループ（株）ダイレクト・ショップ）

全世界に4,000店舗を展開する24時間営業、マシン特化型スポーツジム「エニタイムフィットネス岐阜長森店」がフランチャイズとしてオープン。好きな時に、自分のペースでトレーニングができ、目的別のトレーニングメニューもあるため、効果的に運動ができる施設です。

地域の皆様の健康維持の役割を担っていくことを目的に、お買い物の際に気軽に立ち寄っていただける地域に密着した施設を目指しています。

▲トレーニングマシン

◀店舗内の様子

お客様の毎日の生活をサポート

地域の健康に寄り添う「フレンドマート健都店」

2018年11月17日㈯、北大阪健康医療都市（愛称：健都）として「健康」と「医療」を中心としたまちづくりを推進する再開発事業「JR岸辺駅ビル開発」プロジェクトの複合商業施設「VIERRA岸辺健都」1階に「フレンドマート健都店」をオープンしました。

同店舗では「健都スモークフリー運動」に賛同し、タバコを販売しないほか、「健康」を意識した商品「くらし、すこやかHealthy」を従来店舗の約2.6倍にあたる670アイテム以上取り揃えています。

くらし、すこやかHealthy

健康を意識した「くらし、すこやかHealthy」商品としては、「かるしお®」「減塩」「糖質オフ」「低カロリー」「特定保健用食品」「オーガニック」「無添加」「腸活」「からだ想い」「デリバランス」の10テーマを選定し、ロゴマークを取り付けて展開しています。

[VOICE] スタッフの声

地域の「健康」のために

健康と医療を中心としたまちづくりを推進する地域であることから、健康ニーズにお応えできるラインナップを揃えています。また、お客様にプラスアルファの気持ちを込めて、商品の提案を行っています。お客様に寄り添い、地域の健康を担う店舗を目指してまいります。

フレンドマート健都店 店長　麻川 洋

クッキングサポート

毎日の料理のお手伝いから、簡単、美味しいをキーワードにした料理メニューをお客様にご提案。加えて、定期的に管理栄養士も交えた食育イベントを開催し、健康な食生活のサポートにも注力しています。

1 健康に特化したメニューのご提案

隣接する国立循環器病研究センター（2019年7月移転予定）が推奨する「かるしおレシピ」を再現し実演。「減塩」を意識したレシピや、素材の味を活かした「うま味」に注目したレシピを、調理の工夫や味付けのポイントも含めて実演しながらご紹介しています。「かるしお八方だし」や「かるしお万能だし酢」を使ったレシピは特に反響をいただいています。

かるしお®とは

国立循環器病研究センターがすすめる「塩をかるく使って美味しさを引き出す」という減塩の新しい考え方です。認定商品も100以上となっています。

2 クッキングサポートと連動した品揃え

「かるしお®認定」された商品や減塩や糖質オフ、グルテンフリーなどのアレルギー対応食品などに加え、食と健康に特化した書籍も取り扱い、健康な食生活の応援を続けています。

▲書籍もラインナップに加えています

様々なアイテムを厳選しています

「健康」商品ラインナップ

フレンドマート健都店では低糖質、特定保健用食品、オーガニックなど産地や原料の他、製法や味などにもこだわり、毎日に取り入れやすい商品からライフスタイル提案まで、ヘルシーライフを応援する商品を取り揃えています。これらの商品は、一部の平和堂店舗でも取り扱っています。

かるしお®

国立循環器病研究センターが認定する「かるしお®」商品を数多く取り揃えています。また、クッキングサポートのメニューと連動した紹介を行っています。

糖質オフ・低カロリー

豆腐を使ったヘルシー惣菜など、簡便商材でも糖質やカロリーを意識した商品が揃っています。

グルテンフリー

小麦たんぱくを含まない商品を揃え、アレルギーはもちろん、美容や健康もサポートします。

特定保健用食品

血圧、血中のコレステロールなどを正常に保つことを助けたり、おなかの調子を整えたりするのに役立つなど、特定の保健への効果が期待できることを表示した食品です。

腸活

腸内環境を整える効果が期待できるヨーグルトや食物繊維たっぷりのさつまいもなどを揃えています。

無添加

砂糖や人工甘味料を使わない、自然志向の甘さでおいしいジュースをはじめ、添加物や化学合成品を使わない食品を揃えています。

オーガニック

有機栽培で育てられた野菜や、赤身で栄養価が高く、健康ブームの広がりとともに人気が高まってきた「グラスフェッドビーフ（牧草飼育牛）」などが揃っています。

からだ想い

ブロッコリースプラウト・低カリウムレタスなど

栄養価や食べやすさを高めた、からだにやさしい話題の商品を取り揃えています。

ファイトリッチシリーズ

オランジェ（人参）・弁天丸（ほうれん草）など

タキイ種苗が開発した機能性成分を豊富に含んだおいしい健康野菜シリーズです。

お客様へのサービスを第一とします

平和堂は、お客様に快適にお買い物をしていただくために、さまざまな角度から取組みを続けています。

ノーマライゼーションの推進

ハード（店舗施設）、ソフト（接客応対）両面のバリアフリーに取り組みます。

平和堂のノーマライゼーション推進の目的

平和堂は「商業を通じて豊かな暮らしと文化生活の向上に貢献し、より多くの消費者になくてはならない店になる」という社是の実現を通して、全てのお客様にお買い物を楽しんでいただくためにノーマライゼーション※1を推進しています。

常に清掃が行き届いており、バリアのない施設は、誰にとっても安全で使いやすい店舗になります。そして、社員一人ひとりがお客様にいつも気を配り、自分から声をかけ、必要に応じてお手伝いをすることで、お客様一人ひとりの人権を尊重し、社会のお役に立てるよう取り組んでいます。

※1　ノーマライゼーション
障がい者や高齢者などハンディのある人が、一般の人と同じように生活、活動できるように、社会の方を変えていこうという考え。

ハード（店舗施設）面での取組み

高齢者や障がい者、お子様連れや妊婦の方など、全てのお客様に安心して快適にお買い物していただけるよう、バリアフリーの店づくりを進めています。

新店舗建設や改装時にはバリアフリー新法※2に基づき、出入口の段差をなくす他、多目的トイレを設置しています。2018年度は認定店舗が62店に増えました。

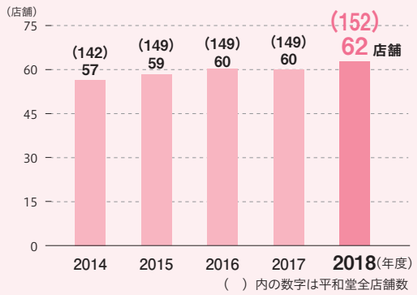
※2　バリアフリー新法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）
「ハートビル法」と「交通バリアフリー法」が統合・拡充して2006年施行。ハンディのある人の生活上の障壁を取り除く「バリアフリー」の考えに基づき、円滑な移動や施設利用を図る法律。

ソフト（接客応対）面での取組み

接客応対の面では、高齢者や障がい者のお客様に適切に対応できるよう、サービス介助士や認知症介助士を育成しています。2018年度末時点での有資格者はサービス介助士226名、認知症介助士60名になりました。

▲多目的トイレ

▶バリアフリー新法認定店舗数の推移



お客様の声に基づく企業経営

お客様満足の追求
お客様の声に支えられています。

平和堂では「私たちのお店はお客様のためにある」ことを常に忘れず、お客様からのさまざまな「お声」に耳を傾けています。

商品の品揃えや価格へのご要望をはじめ、担当者の応対面におけるご指導など、お客様からいただいた貴重なお声については、真摯に対応できるよう仕組みを作り、お客様満足度の向上に繋げています。

▲記入台

▲お客様の声ボード

お客様と気持ちを通わせるための大切な取組みです！

お客様の「笑顔」が私たちの励みです。

～商品だけでなく、ご満足を提供しています～

お客様の声①

抱っこ紐で子どもを抱っこしていると、買い物したものを袋詰めしてくださる方がおられ、とても助かっています。子どもを抱っこしているとなかなかうまく袋に入れられず困っていましたが、このように手伝ってくださると大変有り難いです。いつもありがとうございます！

（30代　女性からの電話）

お客様の声②

先日父が他界しました。生前に何故か「アルプラに行きたい」というので車椅子に座らせて店内を回ると、「久しぶりやね！元気にしてた?」と店員さんから声をかけてくださり、車椅子の横で低くしゃがみ、父の手を両手でにぎり、ニコニコと話しかけてくれました。あまり笑わない父が笑ってとてもうれしそうでした。「アルプラに行きたい」と言ったのは欲しい物があったのではなく、会いたかった店員さんがいたからだったのですね。

（50代　女性からのメール）

お客様の声③

レジで私の前にならんでいた店員さんが、笑顔で順番を代わってくれました。代わってくれた店員さんの前にいた店員さんも、自分の会計を済ませ、すぐにレジの応援に入りました。おかげで待つこともなく、気持ちよく買い物を終えることができました。とても温かな気持ちになりました。こんな風に客を大切にしてくれる店員さんがもっと増えたらいいなと思います。　（50代　男性からの電話）

お客様の声④

9時半から営業しているので、朝子どもを保育園に預けたあとの仕事までの間に買い物を済ますことができ助かっています。お弁当やお惣菜、生鮮品も真新しく、楽しく買い物させていただいています。レジの方が本当に親切でカゴを袋詰め台まで運んでくださったり、袋詰めまでしてくれます！ 平和堂さんに買い物にくると、温かく幸せな気持ちになれます。（20代　女性からの電話）

貴重なお声をもとに改善を進めています。

小さい子どもと一緒に楽しく買い物したい！	お子様用のカートを導入しています。ご家族一緒にお買い物をお楽しみください。
ベンチが固くて買い物の合間に休憩ができない！	休憩所のベンチに座布団をご用意しました。お買い物の合間にごゆっくりおくつろぎください。
介護用品の品揃えを増やしてほしい！	従来の商品に加えて品揃えを拡大しました。ご高齢のお客様にも喜んでご利用いただいています。

平和堂ホーム・サポートサービス

ホーム・サポートサービスのサポートエリアが滋賀県内全世帯数の98.3%を占めています。

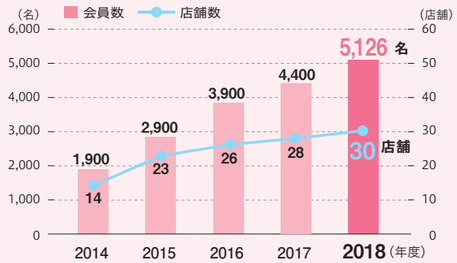
平和堂を育てていただいた地域の方々への恩返しとして「お買い物代行」や「暮らしのお手伝い」を実施し、高齢者のお客様はもちろん、妊婦や小さなお子様をもつご家庭のお役に立ち、喜んでいただいています。

2018年度には、高齢運転者による交通事故の抑止に協力するため、滋賀県警が実施する「運転免許証自主返納高齢者支援制度」に協賛店として加盟しました。これに伴い5月14日より、65歳以上の方で「運転経歴証明書」をホーム・サポートサービス入会時にご提示いただくと、初年度の年会費が無料になるサービスを開始しました。現在は44名の会員が登録しています。

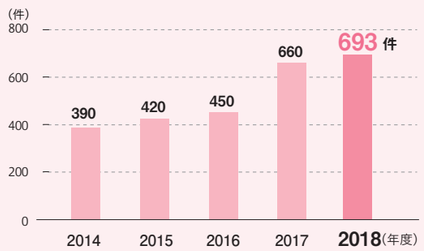
また、2019年2月1日に長浜市と「地域の安心見守り活動」に関する協定を結び、一人暮らしの高齢者や障がい者、子どもなど市民に対する見守り活動を通じて安心して暮らせる社会づくりに貢献しています。

暮らしのお手伝いでは、新サービスとして「手すりの取り付け」「排水設備清掃（屋外、屋内）」をはじめました！

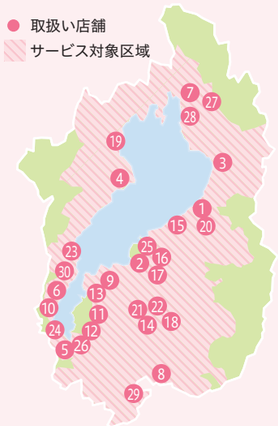
▶会員数と取扱い店舗数の推移



▶暮らしのお手伝い依頼件数の推移



▶取扱い店舗とサービス対象区域



1. 彦根銀座店
2. アル・プラザ近江八幡
3. アル・プラザ長浜
4. あどがわ店
5. フレンドマート石山寺辺店
6. フレンドマート雄琴駅前店
7. 木之本店
8. フレンドマート甲南店
9. アル・プラザ野洲
10. フレンドマート唐崎店
11. アル・プラザ栗東
12. フレンドマート志津東草津店
13. 守山店
14. 石部店
15. 日夏店
16. 愛知川店
17. アル・プラザ八日市
18. アル・プラザ水口
19. 今津店
20. フレンドマート彦根地蔵店
21. フレンドマート竜王店
22. フレンドマート日野店
23. 和邇店
24. フレンドマート膳所店
25. フレンドマート能登川店
26. フレンドマート瀬田川店
27. フレンドマート山東店
28. フレンドマート湖北店
29. **フレンドマート信楽店**（6.14スタート）
30. **アル・プラザ堅田**（9.29スタート）

[VOICE]
ご利用者の声

雨の日も風の日もいつも配達の方が、笑顔で丁寧で、私は顔を見るとホッとします。手足が不自由な私達にとって何よりも有難いです。これからもず～っとお願いしたいと思っています。よろしくお願いいたします。
（T・Mさん/アル・プラザ長浜）

いつも助かっています。また脳トレ問題も楽しみにしています。これからも楽しみに待っています。
（T・Sさん/フレンドマート雄琴駅前店）

いつもお世話になり、助かっています。足が悪く重たい物が持てないため感謝しています。ホームサポートがあって、ほんとうに良かったです。ありがとうございます。　（E・Mさん／石部店）

お客様満足度向上に向けたICTの活用

平和堂スマートフォンアプリ「モバイルHOP会員様」約59万人、「らぶきっず会員様」約11万人、公式インスタグラムフォロワー数、約1万2千人。

近年の新聞購読率の低下とスマートフォンの普及に対応し、平和堂ではインターネットやスマートフォンアプリ、インスタグラムを通じて、お客様にセール情報や、商品・イベント情報、暮らしのお役立ち情報などを配信しています。このようなICTの活用により、お客様が欲しい情報を欲しい時に欲しいだけ、シームレスに利用が可能となり、お客様とのコミュニケーションを深めています。

2018年度はアプリ自体の機能改修と新機能開発により、使いやすさや機動性、利便性を向上させ、お客様への特典や情報提供を強化しました。お子様の情報を入力していただくことで会員登録ができる「らぶきっず～子育て応援クラブ～」では、子育てに役立つセール情報やクーポン、イベント情報を随時発信して、お客様に満足いただいています。

またインスタグラムでは、画像や動画の発信力を向上させ、お客様により興味を持っていただける内容へとブラッシュアップ。お客様参加型企画などのキャンペーン実施や、店舗独自アカウントの発信活性により地域密着の情報発信媒体としても活用していき、平和堂ファンを拡大しました。

お客様とより身近にコミュニケーション、平和堂公式V-tuber「鳩乃幸（はとのさち）」デビュー。

スマートフォンの普及に伴う SNS、動画コンテンツ利用者が増加している近年において、一方的な発信ではなく、お客様と身近にコミュニケーションを図りたいとの思いから、インターネットを通じてより多くのお客様に平和堂の情報を発信する V-tuber※1 平和堂社員「鳩乃幸」が、2018年12月にデビューしました。

また YouTube、SNS での動画配信以外にも、売場に設置した大型モニター越しに商品を説明したり、じゃんけん大会を開催したりするなどお客様とリアルタイムで交流し、店頭対話ができることから、今までにない店舗でのお買い物の楽しさを演出しています。

今後も平和堂公式 YouTube チャンネルでの商品やサービス、イベントなどのご案内動画配信と、平和堂店舗店頭でのお客様との接客、対話活動を進め、お客様へより良いサービスを展開していきます。

※1　V-tuber
Virtual Youtuber（バーチャル・ユーチューバー）。人の形をしたアニメーション（アバター）による、声、身振りのパフォーマンスをする内容。オンラインライブ配信によるリアルタイムの双方向対話体験をしていただくことで、「バーチャルでありながら、ヒューマンの魂を持ったコミュニケーションができる」ことが特徴。

よい品を販売します

平和堂は、品質がよい、安全な商品を販売するのはもちろん、
社会や環境に貢献するような商品のラインナップを拡充しています。

▲JAグリーン近江さんのインショップ売場（フレンドマート五箇荘店）

▲花様ファームさんのインショップ売場（アル・プラザ瀬田）

地産地消の推奨

地域の生産者の方と新鮮で安全な食品の提供に取り組んでいます。

平和堂は地域に密着した企業として、地元で生産された野菜を販売する売場を設け普及に貢献しています。

「地場野菜コーナー」設置店舗は2017年度より6店舗増えて（昨年より7店舗増、1店舗減）136店舗となり、内93店舗がセンターを使用しない直納野菜コーナーです。

生産者が好きな商品（加工品も含む）を持ち込み、値段を決めて販売できるうえ、個人生産者が特定できるインショップ化の導入にも力を入れており、69店舗まで拡大しました。

2018年度は、秋の天候災害や冬の重量系野菜の相場が下回ったことで、仕入額が前年比98.5%の36億9,500万円でしたが、インショップの売上げは6,100万円（前年比116%）まで伸びました。

［VOICE］ 生産者、消費者の双方にとってメリットであるインショップの展開

バイヤーの声

地場野菜コーナー設置に際し、基本持込みを優先し、その中でもインショップ化を進めています。インショップ化にすることで野菜果物だけでなく、生産者が作った農産加工品も幅広く扱うことができやすくなるので、お客様にご好評いただいております。

生鮮食品事業部　青果課　箕浦 啓太

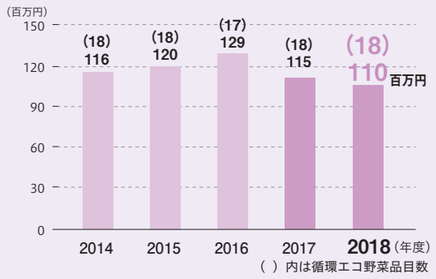
食品リサイクル（循環エコ野菜）

食品リサイクル率を向上させ環境負荷低減の野菜販売を推進しています。

平和堂では、2010年より野菜売場の商品加工過程で発生した野菜くずや販売期限切れの廃棄食品などを、契約工場で堆肥としてリサイクルしています。この堆肥を使って野菜を栽培し、再び店頭で販売するという食品リサイクルループを利用した「循環エコ野菜」の取組みを推進しています。

2018年度は、夏場の天候不良により主力商品であるかぼちゃの売上げが半減、また秋冬物の相場安で白菜の出回りが多く、販売数量は伸びましたが、販売額は下回り1億1,026万円（前年比81.5%）となりました。

▶「循環エコ野菜」年間販売額の推移



野菜品目

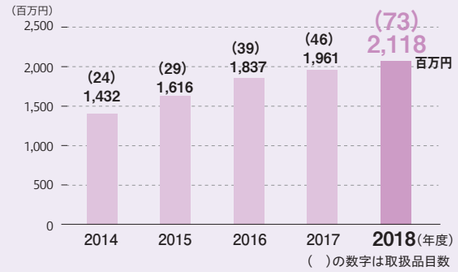
- ブロッコリー
- なす
- ニンジン
- かぶら
- かぼちゃ
- えだまめ
- 玉ねぎ
- ばれいしょ
- 白菜
- ミニトマト
- さといも
- 小松菜
- 金時草
- 春菊
- 大根
- グリーンリーフ
- キャベツ
- みずな

平和堂ストアブランド「E-WA!」

「E -WA! 」商品へ平和堂のこだわりと愛情を込めてお届けしています。

平和堂ストアブランド「E-WA ！」は、誰もが「おいしい」と感じることを基準に、素材や製法にこだわり、可能な限りお求めやすい価格で、お客様に「こんな商品欲しかった！」と思っていただける商品をコンセプトに開発しています。また、お客様のご要望を受けて新商品が生まれることもあり、年々アイテム数や販売額も増え、ストアブランドとして着実に成長しています。

▶「E−WA！」年間販売額の推移



［VOICE］お客様サービス室に届いた声

E-WA!低温殺菌牛乳

日付が3日目に店頭に並ぶのはすごい。安心安全を感じます。しかも低温殺菌でこの価格は安いですね。

E-WA!長時間発酵ヨーグルト

味がおいしく、よけいな物が入っていないので、安心して口にできます。

［VOICE］ E-WA!の知名度上昇中

バイヤーの声

平和堂独自の開発品で、どの商品もコンセプトがはっきりしており、お客様にもおすすめしやすいです。

一般食品事業部 日配品課
簗脇 裕信

▲「Vチューバー 鳩乃幸」も「E-WA！」を紹介

▲クッキングサポートとの連携による商品PR

「E-WA!」商品の素晴らしさをPR

2018年度は週トククーポンを通じて、まだお試しいただいていないお客様にも、実際にお試しいただけるような取組みを進め、クーポン利用での実績は2億7千万円となりました。

▲週トククーポンで「E-WA!」をおすすめ

また、毎月18日は「E-WA!」商品をご紹介する日と定め、クッキングサポートと連携して「E-WA ！」のおいしさをより引き出すメニューを提案して、多くのお客様に商品の良さを味わっていただいています。

さらに昨年同様、「You Tube」に担当バイヤーが出演したほか、「Vチューバー　鳩乃幸」による商品紹介も行い、お客様に商品の魅力を発信しています。

近江の魅力、発見

2018年度の「Oh!みごとしが」は、昨年度以上に滋賀県のOh!みごとな魅力を発信しました。

平和堂では「Oh ！みごとしが」のリーフレットを発行し、それに合わせたキャンペーンを実施して、近江の魅力を再発見、地産地消に繋げる取組みを行っています。

「びわ湖の日※1」に合わせて、滋賀県内の店舗で「しがっこ　Oh ！みごとクイズ」を実施し、小学生のお子様にご参加いただきました。Oh! みごとな魅力をより知っていただくために、滋賀県のお米「みずかがみ」や湖魚の加工品などを題材にしたクイズが出題され、滋賀県の素晴らしさを伝えました。また、景品にはびわ湖のヨシで作ったノートをプレゼントしました。

秋には平和堂旅行センターオリジナル商品「じもとりっぷ」の紹介に加え、秋を満喫できる県内の観光スポットも掲載し、地域の魅力発信にも力を入れました。

※1　「びわ湖の日」
滋賀県では 1981年に琵琶湖条例の施行 1 周年を記念して、7 月 1 日を「びわ湖の日」と決定しました。

旅を通じて地域貢献

地域に密着した旅のお手伝い平和堂旅行センター
～「旅のチカラ」を通じた地域貢献～

28店舗で営業している「平和堂旅行センター」（下段に記載の一覧参照）では、旅に関するお手伝いを通して地域の健康と活性化に貢献できるよう、さまざまな商品を提供しています。その中でも、地域の魅力を伝える2種類の「平和堂のまちあるきツアー」では、地域とのコミュニケーションを深め、文化交流を推進しています。

1．じもとりっぷ ※1

平和堂旅行センターの各営業所スタッフが地域情報を収集し、平和堂が立地している地域を「じもとガイドさん」と一緒に歩くツアー。

2．歩こう！ビワイチ

びわ湖を取り囲むJRの駅から駅の定番・穴場観光スポットを「じもとガイドさん」のお話を聞きながらまちあるきを楽しみ、びわ湖一周を目指しているツアー。

※1「じもとりっぷ」は、株式会社平和堂の登録商標です。

あなたの街の平和堂旅行センター
～以下の28ヶ所で営業しています～
（2019.4 月末現在 ）

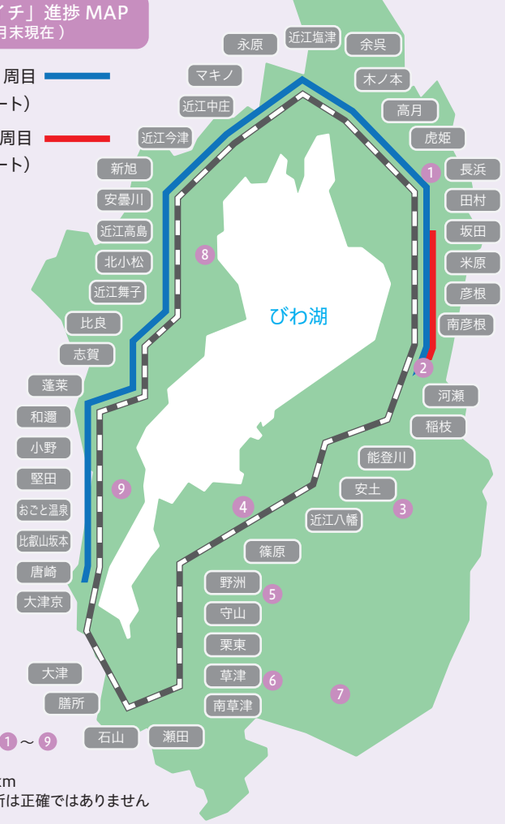
まちあるきツアーのみならず、パッケージツアーのご案内、地元の自治会・PTAのお集まりや子供会などのグループ旅行を含め、さまざまな旅のお手伝いをさせていただいております。

滋賀	①	アル・プラザ長浜	福井	⑮ アル・プラザ鯖江
	②	ビバシティ平和堂		⑯ アル・プラザ敦賀
	③	アル・プラザ八日市	京都	⑰ アル・プラザ亀岡
	④	アル・プラザ近江八幡		⑱ アル・プラザ醍醐
	⑤	アル・プラザ野洲		⑲ アル・プラザ宇治東
	⑥	アル・プラザ草津		⑳ アル・プラザ京田辺
	⑦	アル・プラザ水口		㉑ アル・プラザ城陽
	⑧	平和堂あどがわ店		㉒ アル・プラザ木津
	⑨	アル・プラザ堅田	大阪	㉓ アル・プラザ枚方
富山	⑩	アル・プラザ富山		㉔ アル・プラザ香里園
	⑪	アル・プラザ小杉		㉕ アル・プラザ茨木
石川	⑫	アル・プラザ津幡	兵庫	㉖ アル・プラザつかしん
	⑬	アル・プラザ金沢	岐阜	㉗ アル・プラザ鶴見
	⑭	アル・プラザ小松	愛知	㉘ 平和堂江南店

「歩こう！ビワイチ」進捗 MAP
（2019.4 月末現在 ）

「歩こう！ビワイチ」1周目（2017年3月にスタート）

「歩こう！ビワイチ」2周目（2019年3月にスタート）



※平和堂旅行センター ① ～ ⑨（滋賀県内）
※びわ湖一周は約200km
※イメージ図のため場所は正確ではありません

じもとりっぷ

「じもとりっぷ」は、普段は見過ごしてしまうような風景や生活を体験できることが最大の魅力です。地元名産のおいしいお土産付きのツアーや、船に乗る、路面電車に乗るツアーなど、さまざまな趣向を凝らした企画があり、それぞれの地域の良さを発見し、地元の人のようにその土地を楽しめるものになっています。

設定ツアーの一例

- 鰻絵（こてえ）のまち旧北陸道宿場町「小杉」の面影をたどる（射水市）
- びわ湖に浮かぶ秘境の島「竹生島」を訪ねて（高島市・長浜市）
- 古地図で巡る幻の彦根城外堀ツアー（彦根市）
- 歴史街道美濃路を歩く、萩原宿から起宿（一宮市）
- 幸せを呼ぶハートの窓「正寿院」と日本緑茶発祥の地をめぐる（宇治田原町）
- 交野の歴史散策　七夕ゆかりの織姫の里へ（交野市）

「じもとりっぷ」実施の様子▶

[VOICE]　地域密着を目指したまちあるきの商品企画を

スタッフの声

企画を設定するにあたり、ぜひ知っていただきたい、体験いただきたい内容を盛り込みました。私たちと一緒に新しい発見をして欲しいという願いを込めています。

「じもとガイドさん」も同行するため、地元ならではの楽しい話を聞きながらゆったりとした旅を満喫いただけます。

秋以降（10月～3月出発）のツアーは8月中旬に発表させていただく予定です。

平和堂旅行センター各営業所長▶

「歩こう！ビワイチ」

「歩こう！ビワイチ」は、昼食と地元のお土産が付いて、旅行代金が3,000円前後のお手頃な価格となっており、リピーターの方も多いツアーです。

2017年3月にJR南彦根駅から彦根駅の区間でスタートし、2020年7月のゴールを目指し、2019年4月末現在JR湖西線唐崎駅まで歩いてきました。また2019年3月には南彦根駅から2周目をスタート。1周目と2周目の同時参加で早くびわ湖を一周していただくことが可能となりました。初めての方でも気楽にご参加いただけます。

▲「歩こう！ビワイチ」実施の様子

[VOICE]　「歩こう！ビワイチ」まちあるきツアーの魅力とは

参加者の声

知らない土地を歩いてめぐるウォーキングは毎回いろいろな発見や刺激があって楽しんでいます。特にびわ湖を視界に入れてのウォーキングは心が解放されます。

季節に応じた陽ざしを浴びながらのまちあるき、素敵な仲間との出会い、「じもとガイドさん」の説明もあり、毎回充実した旅を堪能しています。

地元ならではの昼食とお土産もいつも楽しみにしています。

小野駅～堅田駅間（2019年の2/27・3/8・3/14実施）に▲▶ご参加いただいた皆様

お取引先との信用を重んじます

平和堂は、社会からの「信用」を大切な財産と考えています。
築いてきた信用を失わないために、さまざまな取組みを進めています。

安全・安心な商品の提供

お客様からの信頼に応え、より良い商品をお届けするために衛生管理を重点的に実施。

2018年度は、品質管理室において「見やすく・わかりやすく」をキーワードに、社員一人ひとりに衛生管理を理解してもらうツールを作成し共有しました。

まず、店舗におけるマニュアルの確認と教育用のツールとして「インストア衛生管理マニュアル」を刷新し、店舗に配付しました。次に『皆で守ろう！衛生管理！』をキャッチコピーにしたポスターを新たに作成、作業場に掲示しました。

さらに、月度重点管理項目と品質管理週報を作業場に掲示するなど、衛生管理に関するマニュアルの確認と再徹底を重点的に行い、メンバー全員の衛生管理に関する認識の向上と知識の確認を行っています。

2018年度は 90.1%であった店舗総合衛生調査合格率ですが、100%を目指し、さらに衛生管理への意識を高めていきます。

▲インストア衛生管理マニュアル

▲店舗に配付している週報・ポスター

▶店舗総合衛生調査の合格率（%）

	上期	下期
店舗総合衛生調査（総評）	80.1	90.1
インストア作業場の調査	96.1	98.2
表示管理	68.2	63.2
計量管理	97.9	98.7
売場管理	93.4	98.7
コンセ作業場の管理	75.5	90.3

ショッピングセンターとして同友店との協力

平和堂のショッピングセンター全体の衛生管理の向上と運用を徹底するために、3年前より取り組んでいる同友店の衛生強化を年々改善し、来店されたお客様に「安全」「安心」な商品を全館でご提供し、また来たくなるお店となるように取り組んでいます。

新食品表示法への対処

2020年4月から完全施行される新食品表示法へ対応するために、社内で使用している表示システムの改修を行い、旧表示からの変更準備を進めています。

[VOICE] 作業場をきれいに

社員の声

2018年度は新たに「ルミテスターPD-30」を品質管理室に導入しました。通常は見えない細かな汚れや菌数を数値化できるため、店舗作業場での衛生手洗いや調理器具の洗浄が適切に行えているかが簡単に確認でき、洗浄に対するメンバーの意識を上げる教育ツールとして活用しています。

CS推進部　品質管理室　粕渕 真樹

ルミテスターで汚れを Check!　フレンドマート八幡一ノ坪店

▲「200」以下が合格ラインですが、「200」を大きく下回っていて、通常の洗浄が正しく行えており、隅々まできれいにしていることが分かります。

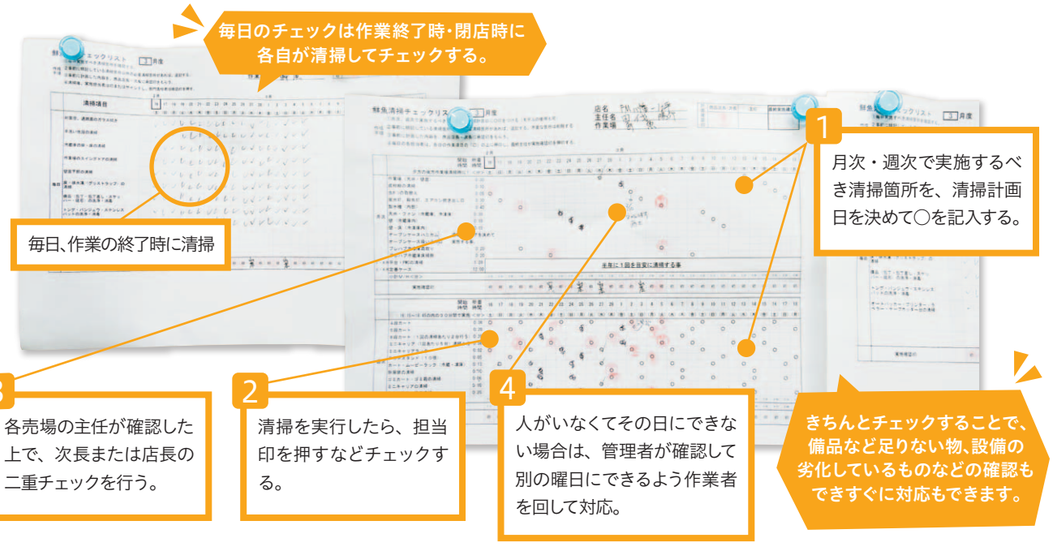
PICK UP! 衛生管理評価※1「オールS」への道

～フレンドマート八幡一ノ坪店の取組み～

「お客様に安全・安心な商品を提供」をモットーに、スタッフ全員が積極的に衛生活動に取り組んでいるフレンドマート八幡一ノ坪店。日々の業務に追われて清掃などが滞りがちになる中、スタッフ全員が作業場の清掃をルーティン化して常に清潔に保っており、「インストア作業場衛生管理検証」においてどの部門でも全て満点。当店がどのように衛生管理を運用し、また維持しているのか紹介します。

※1　衛生管理評価
インストア作業場衛生管理の検証表に基づいて、衛生管理状態をチェック。チェック項目は46項目あり、100点が「S」判定となる。

清掃チェックリストで Check!　「月1回の清掃」「週1回の清掃」「毎日清掃」の箇所をシートでしっかりチェック！



＼各部門の作業場をのぞいてみよう！／

デリカ寿司部門

▲包丁などの調理器具は、1回使うごとにきちんと洗浄、作業の最後には漂白剤で除菌と殺菌を行っています。

デリカ部門

▲フライヤーなど油汚れをしっかり洗い流した後、食洗機でも洗浄しています。

鮮魚部門

▲1日の終わりには、必ずグリストラップを清掃して生ごみなどが残らないように。

美しい商品は、美しい作業場からしか生まれない

毎日の朝礼・昼礼・夕礼時には必ず衛生管理について話をしており、作業場は常にきれいな状態が「当たり前」という意識がスタッフ全員に根付いたことが、今回の結果に繋がりました。

また、清掃の方法やきれいの判断は作業者によってまちまちになりがちですが、入社時にきちんと計画的に指導をして、その後は他の作業教育時に、清掃についての教育を併せて行ったり、声かけをしたりして意識を高めています。

フレンドマート八幡一ノ坪店
店長　北波 幹

公正・公平な取引の推進

多様なステークホルダーとの関係を築き、企業活動を実施しています。

お取引先様との共存共栄を目的として1974年に発足した「平和堂ハトの会」。毎年6月に定時総会と懇親会を実施しており、2018年度は317社、495名の会員の皆様にご参加いただきました。また、お取引先様との関係向上を図るため毎年アンケートを実施しており、いただいたアンケート結果は各部門において課題を共有し改善に努めています。

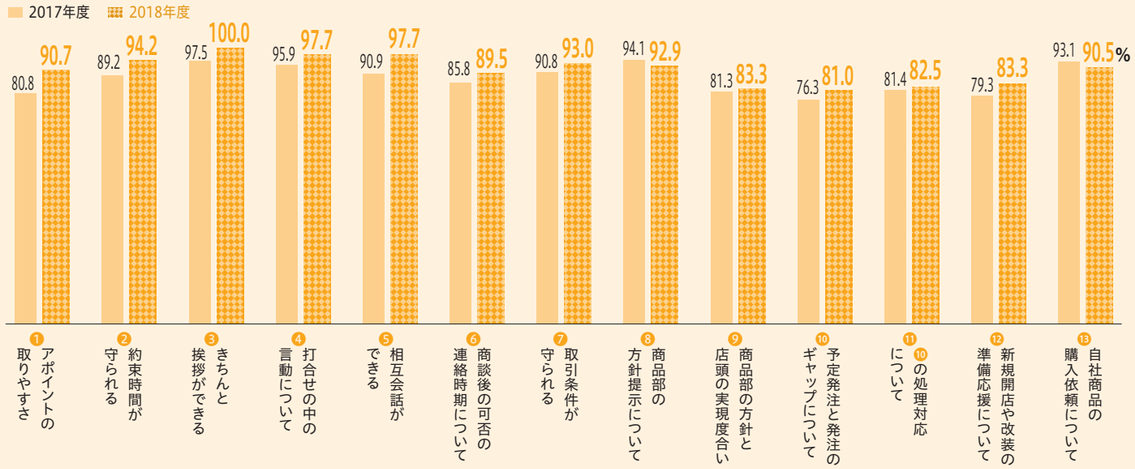
▲ハトの会定時総会(2018年)

▶お取引先様満足度アンケートを経営に反映させる仕組み

【ハトの会定時総会】において**アンケート配付** → **アンケート結果のとりまとめ** → 内部統制委員会において**報告** → 管理者・バイヤーに**結果の公開**

お取引先様満足度(平均値)
90.5%

▶2018年度 お取引先様満足度アンケート調査結果(%)



▲コンプライアンス教育

法令順守のための社員教育

法令順守のために教育を行っています。

平和堂は「独占禁止法」「下請法」などの関係法令を順守し、公正公平な取引を実施しています。特に管理職・バイヤーには「独占禁止法順守マニュアル」や、日本チェーンストア協会作成の「納入業者との公正な取引を推進するためのQ&A」を配付し、不公正な取引方法の禁止、応援依頼させていただく場合のお取引先様の同意や対価の支払いなど取引ルールの順守に努めています。コンプライアンスを社員に浸透・定着させることが重要と考え、2018年度も新任店長・新任バイヤーを対象にコンプライアンス教育を実施しました。

適切な情報開示

売上・決算などの情報開示に努めています。

平和堂はホームページにおいて決算短信・決算公告・報告書などを適時公開しており、株主・投資家の皆様に向けて情報開示を行っています。2018年度は当社ホームページと当社スマートフォンアプリに「株主様募集ページ」を開設し、当社の株主になられた時のメリットや株式購入のための諸手続きなどを見やすくかつ分かりやすく紹介しています。また、東京と大阪にて機関投資家向けに年2回、決算説明会を開催しています。

▲ホームページ画面

▶株主様募集ページ
URL http://mobile.heiwado.jp/shareholder/

株主優待制度のご案内

株主の皆様のご支援に感謝しています。

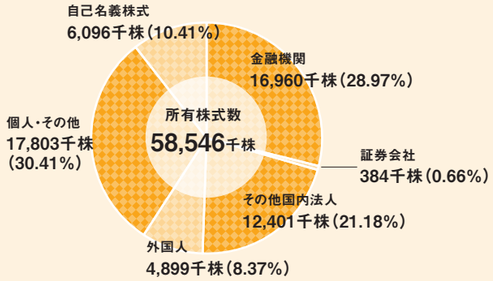
平和堂は、株主の皆様のご支援に感謝し、株主優待制度を導入しています。当社営業エリア外にお住まいの株主様にも株主優待制度をご活用いただけるよう、株主優待券と全国で利用できるギフトカードとの選択制を採用しています。また、新店舗の情報や当社のトピックスなどをまとめた報告書を年に2回株主様に送付しています。株主優待制度に関しては、ホームページ等にて詳しく案内しています。

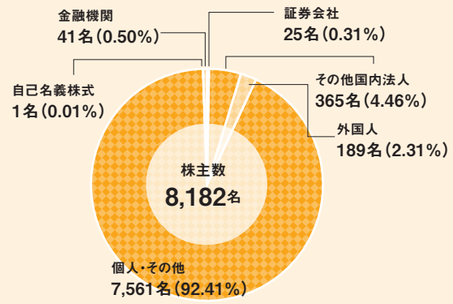
▶株主優待制度について
URL http://www.heiwado.jp/news/news02_04_02.htm

▶報告書
URL http://www.heiwado.jp/ir/jigyo_top.html

▲第62期中間報告書

▶株式の分布状況(2019年2月20日現在)





※数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

みんなの幸せを築きます

平和堂は、社会に認められる会社になるために、
「人」を大切にする会社を目指しています。

ピカピカ実現活動

上期1,331グループ、下期1,278グループが活動
小集団活動を通して、サービス向上・業務改善を目指しています。

ピカピカ実現活動は、お客様の満足度向上を目的とし、自主的な活動として各店舗が売場別にグループを作り日々活動しています。「お客様のために…」を基本とし、社員一人ひとりが知恵を出し合いながら、みんなで励まし合い、誰が見ても際立って輝いている売場・商品・サービスを提供することを目指しています。

その活動の中から優秀な活動を共有・水平展開するため、1,000人以上が集まる全社発表大会を年2回実施しています。また、過去の発表大会の様子がわかるパネルや、平和堂の新しい取組みの展示ブースも設置。参加者にとっては、今後の活動の参考にもなり、有意義な一日となっています。

▶2018年度上期発表大会（2018年10月17日実施）

	店　名	売場名	グループ名	テーマ
	フレンドマート尼崎水堂店	青果	水みず青果	「お客様に選ばれる店になる」青果売場実現度向上による客数増と利益改善
	アル・プラザつかしん	加工食品・ 日配品	モバイル隊	1 位とったるでー！！
1	穂積店	デリカ	ほづみあつあつ隊	人時生産性の改善！！
	フレンドマート湖北店	青果・精肉	二刀流大谷派	青果・精肉の両立を極める
	フレンドマート大津なかまち店	デリカ・鮮魚	デリカウォーズ	なかまちのデリカ鮮魚は 1 人ひとりが主人公！
3	フレンドマート日野店	衣料	しゃくなげ女子会	No.1 に成るために
2	ビバシティ平和堂	店全体	ピカいち・トンガリ隊	ここまでやるか！ビバシティ
	アル・プラザ富山	店全体	モバイル獲得連合軍	モバイル会員募集を強化し店舗の客数を増やす

▶2018年度下期発表大会（2019年4月17日実施）

	店　名	売場名	グループ名	テーマ
1	あどがわ店	鮮魚	あどがわの魚屋	地産地消！琵琶湖の魚と近海小浜港の旨い物を食卓へ！
	アル・プラザ醍醐	デリカ	デリ松商店	生まれ変わるデリカ売場！！自ら変わる・一緒に変わる
3	アル・プラザ鹿島	サービスセンター・エルダー	ミラクルズウイズ かしまんグラム	HOP カード募集と電子媒体のチャレンジで客数 UP
	愛知川店	グロサリー	グロリアス愛知川	コスモスに負けない売場構築
	扶桑店	デリカ	揚げたて一番！	マルチスキル化による売場実現度の向上
2	フレンドマート信楽店	店全体	たんたん狸の寄り合い	効率改善を通して客数と売場実現度 UP ！念願の純利益達成へ！
	フレンドマート南郷店・スーパーフレンド大石店	鮮魚	チーム旬彩	全員参加で地域いちばんの魚屋になる！
	フレンドマート八幡一ノ坪店	鮮魚	八幡の魚路	対面売場の構築による、鮮度、品揃え感の向上

PICK UP! 新しく「衣住ピカピカ実現活動発表大会」を実施

2018年度の取組みとして、従来の全社発表大会に加え、11月に衣料品事業部・住居関連品事業部を対象にした、「衣住ピカピカ実現活動発表大会」を実施。全社の衣料品・住居関連品売場の中から、際立って輝く売場・商品・サービスを実現した3グループが発表をしました。その他イベントとして、商品部のバイヤーが中心となって企画した「新商品の展示」や「ファッションショー」も実施。参加者からも好評を得ました。

▲今年のトレンドファッションショー

▲新商品の展示

▲第1位を受賞したアルプラフーズマーケット大河端の発表

▶2018年衣住ピカピカ発表大会

	店　名	売場名	グループ名	テーマ
	アル・プラザ枚方	専門店	チーム美魔女	お客様満足度 100%
	アル・プラザ瀬田	レディス・専門店	ハッピースマイル	魅力あふれるレディス専門店売場へ
1	アルプラフーズマーケット大河端	住居関連品	大河端とらいあんぐる	大河端 25 億住関の団結力で達成させるぞ！！

[VOICE] 活動を通じて、メンバーのやる気がアップ

リーダーの声

第1回大会に参加させていただき、栄えある最優秀賞を受賞できたことを大変うれしく思っています。全員で高い目標に挑戦し、地域のお客様のお役に立てる店になるためにがんばってきたことを発表する機会をいただき、大変光栄に思います。

発表後、メンバーのやる気もますますアップし、とても良い仲間に出会えたことに改めて感謝しています。さらに多くのお客様のお役に立てるように、全員で一丸となって明るく楽しく、仕事にやりがいを感じながらがんばります。

アルプラフーズマーケット大河端　住居関連　主任
山根木 隆文

人材育成

「人間力の向上」をテーマに、
自己育成の場を広げ、自主性と積極性をサポート。

2018年度人材育成の考え方として大きく5つの内容に取り組んでいます。スキルアップはもとより、それぞれの意欲を最大限に引き出し、自発的・自律的な社員の育成を目指します。

(1) 創業者の思いと経営理念を深耕するとともに実践できる人材の育成

次世代の経営者を育成する、経営者育成塾の卒塾生を対象とした「ステージアップ塾」を新設しました。

創業者の思いや経営理念を理解し、日々の行動のベースとして実践することで周囲の模範となるとともに、集団や組織にプラスの影響を与えることができる管理者を育成しています。

(2) 高い専門性を必要とするセクションでの人材育成、能力開発

専門性の高いバイヤーの育成のため、「バイヤー研修」を新設しました。

また、その他の専門的な部署においても業務遂行に必要なスキルや知識を明確化することで、今の自分に、また将来の自分に何が必要で何が足りないかが理解でき、そのスキルや知識を事前に学ぶことができる環境を整備しました。

(3) 若年層への教育機会の拡大による早期育成と定着促進

1年目から5年目までの「年次別ステップアップ研修」を拡大することで、レベル間の是正と定着を促し、同期意識の深耕を目指しました。

新入社員教育は従来の聴講形式のカリキュラムを縮小し、「考える」「自分の意見をまとめる」「議論する」「チームの答えを導き出す」というストーリーに沿ったカリキュラムに変更しました。

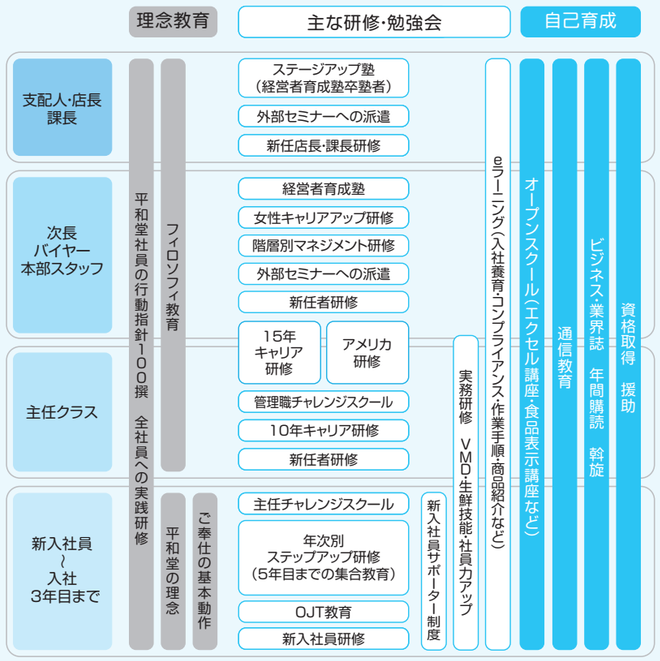
(4) ITインフラやデバイスを活用し、効率的、効果的に学ぶことができる機会の提供

育成施策の中心である集合教育とOJT、自己育成に加えて新たに「eラーニング」を導入しました。「eラーニング」の活用により、集合研修やOJTから一部移管をし、効率化も実現しました。

(5) 多様な人材が自分らしく、互いに磨き合い、生きがいをもって活躍できる風土作り

正社員登用制度を活用し、パートナー社員から正社員へ社員区分が変更になった社員に対し、期待される職務や能力が変わることの理解を深め、以後のさらなる飛躍を促すような教育を実践しました。

▶教育体系図（2018年度）



社内でeラーニングの活用が始まりました。

ITやインターネットを活用した学習ツールである「eラーニング」をアルバイトを含む全社員に向け導入しました。これにより、パソコンやタブレット、スマートフォンを用いて、動画やテキストで分かりやすく学ぶことができるようになりました。

eラーニングの特徴である
①いつでも、どこでも、気軽に自分のペースで学習できる。
②動画や音声により、学習理解度を高めることができる。
③進捗状況やテスト結果などのフィードバックが即座に確認できる。
を活かして学ぶ機会を拡大しています。

各部署が作成するコンテンツ（動画やスライド資料）を随時配信し、予習や復習に利用できるよう、学びの場を充実させています。

これからもeラーニングは社内の教育ツールとしてバージョンアップし、だれもが容易に活用できる環境を作り、社員全体のレベルアップを推進していきます。

学びの環境を整え、
教育の機会を提供します。

女性活躍推進

「自分らしく輝き続ける」ことを目的として女性管理職を対象とした他社交流会を開催しました。

平和堂では、今まで、女性活躍推進の取組みとして社内でキャリアアップセミナーを行ってきました。2018年度はさらに視野を広げ、自分自身を見つめ直すきっかけとして、平和堂を含め流通小売業5社の女性管理職が集まり、交流会を開催しました。

「自分らしく輝き続けるための考え方・生き方」をテーマとした講演や参加者同士の意見・情報交換を通じて、さまざまな考え方を学び、多くの気づきを得ることができました。また、互いの親睦を深めることができ、社外とのネットワークづくりの第一歩となりました。

今後は、同業他社だけでなく異業種の方々や管理職を目指す女性など、さまざまな切り口で交流会を開催し、さらにネットワークを広げていきます。

▲過去の女性キャリアアップセミナー

▲部長、課長、店長、店次長、バイヤーなど各社で活躍しておられる女性管理職の方々

[VOICE]　女性他社交流会に参加して

社員の声

女性他社交流会に参加させていただき、講義の内容はもちろんですが他社の同じ立場で働く方々と悩みや働き方について色々な意見交換ができ、自身を見つめ直す良いきっかけとなりました。

講義の中で印象に残っていることは、「ワークライフバランス（仕事と生活の調和）」の重要性です。自身だけでなく、共に働くメンバー全員の働き方を変え、感性を豊かにし、発想力・創意工夫を繰り返し目標達成できる環境づくりに努め、仕事の質を上げて取り組もうと思いました。

レディス課 課長　杉橋 悦代

多様な人材の雇用

多様な人材が活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

平和堂は、性別や年齢、雇用形態に関係なく、多様な価値観を認め合い、社員のライフステージに合わせ個人の能力を発揮できる職場環境を提供しています。また、パートナー社員のための職務等級制度や、障がい者雇用にも積極的に取り組んでいます。

その他に、OB社員主体による採用活動「おしごと相談会」を積極的に実施することで、より多くの方に、平和堂での仕事に興味を持って入社いただけるよう活動しています。

▶平和堂の雇用状況（2018年度）

社員構成

	男	女
正社員	2,386名	987名
契約社員	48名	32名
パートナー社員	931名	9,807名
アルバイト社員	3,227名	5,677名
小　計	6,592名	16,503名
合　計	23,095名	

障がい者雇用

障がい者雇用者数	274名
障がい者雇用率	2.37%

パートナー・シニアパートナー社員構成

パートナー社員数	10,274名
パートナー社員比率	72.4%
パートナー主任数	131名
パートナー主任比率	10.6%
シニアパートナー社員数	464名
シニアパートナー社員数率	2.03%

※パートナー社員：パートタイム労働者のこと。

多様な働き方の推進

「はとパパはとママセミナー」を毎年開催しています！

2018年度は、11月8日（京都会場）、10日（滋賀会場）の2日間で、パパ・ママ35名とお子様29名、合計64名の方にご参加いただきました。

今年度は、育児休業中の方を対象に「会社の現状」や昨年の実施アンケートで要望の多かった「社内ポータルサイト」「レジ業務」についてeラーニングの活用も含めて紹介しました。参加者からは「復帰の前にeラーニングで確認できるようになったのがうれしい」との声がありました。

また、今回は、初めて昼食を取りながらの情報交換の時間も設け、親子で食事をしながら楽しいひとときを過ごしていただきました。今後も、子育て中のパパやママを応援するセミナーを開催していきます。

▶ゆとりライフ制度などの概要と利用者数（名）

制度名	概要		2016年度	2017年度	2018年度
休職制度	傷病、育児、介護等の事由に応じて一定期間休職できます。育児は、子が満3歳に達した月度末まで取得できます。	育児	160(1)	148(1)	132(0)
		介護	4	3(1)	11(4)
短時間勤務制度	育児または介護する社員が、勤務時間を6時間・7時間の中から選択できます。育児は、子が小学校4年生の4月15日まで取得できます。	育児	93	100	96
		介護	0	0	2(1)
配偶者出産休暇	出産（予定日）の前後各2週間の間に2日間取得できます（有給）。		10	12	7
社員区分変更制度	育児・介護の期間、正社員からパートナー社員へ社員区分を変更し、その事由が消滅した段階で元の正社員へ復帰することが可能です。	育児	73	81	83(1)
		介護	1	1	2

※ 各年度2月20日時点の人数　※（　）内は各年度での男性の利用者数（名）

◀「はとパパはとママセミナー」参加者の皆さん

安全・労働衛生

社員が安全に働ける職場づくりに努めています。

平和堂では全店舗で労働安全衛生法に基づいた安全管理者を選任し、各店舗において社員が安全に仕事できる職場づくりに努めています。この安全管理者の資格取得のための講習は、社内で講師を養成し、小売業の実状に合わせた講習を行っており、すでに店舗の管理職480名が資格を取得しました。

また、本部の中央労働安全衛生委員会では全店分の労災事例を分析し、傾向をつかむことで全社的な労災防止対策を担当部署と共に起案、実施しています。社員の高齢化等に伴い、労災が年々増加していることから、2018年には、中央労働安全衛生委員会がより強いリーダーシップをとるべく、社内での機能をさらに強化しました。そこで、まずは2017年に労災件数が最も多かった鮮魚部門の包丁による「切れ・こすれ」についての対策に取り組み、9月に全店の鮮魚部門に「耐切創防止手袋」を導入したところ、本件の労災は前年同時期と比べて40%減少しました。次に繁忙期である年末年始の全店の安全目標を「転倒労災防止」として、対策を強化したところ、屋内の転倒労災件数は43%減少しました。

引き続き中央労働安全衛生委員会が主体となって安全衛生活動に取り組んでいきます。

2018年度　度数率※・強度率※

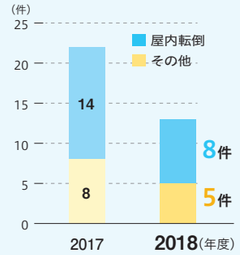
度数率 **5.24**

強度率 **0.102**

※度数率：100万延べ実労働時間当りの労災による死傷者数で、災害の発生頻度を表す。
※強度率：1000延べ実労働時間当りの労働損失日数で、災害の重さを表す。

▶鮮魚部門
切れ・こすれ労災件数
（10月～12月）

▶全部門
転倒労災件数
（12月～1月）



人権啓発活動

多様性を尊重できる人権意識の浸透を図ります。

平和堂では、人権が尊重される職場風土の確立に取り組んでいます。各店舗に「人権教育推進委員会」を設け、委員会活動を中心とした啓発活動を推進しています。また、一人ひとりが自分らしく輝ける職場を目指して各種研修を実施しています。

新任者を対象とした「新任店長研修」「新任次長研修」「新任主任研修」ではハラスメントを理解し対応を学ぶ研修を実施しており、「新入社員研修」「新店研修」では「ノーマライゼーションの基本」や「インターネットと人権」をテーマに幅広い人権問題の基礎を理解し実践できる研修を実施しています。

eラーニングを活用した研修も実施しており、お客様に優しく、社員がいきいき働ける企業を目指して取り組んでいます。

▲eラーニングを活用した講座

地域社会のためにつくします

平和堂は、地域社会の一員として、よりよい社会をつくるための取組みに注力し、「環境」と共存する会社を目指しています。

食育推進活動

さまざまな経験を通じて、健全な食生活を実践できる力を育んでいます。

産地収穫体験

お取引先様と共同開催の収穫体験を行っており、生産者の方々の話を聞いたり、採れたて野菜を使っての料理教室をしたり、親子で楽しみながら生産者や食べ物に感謝するこころを育んでいます。

この他、滋賀県のバスケットボールチーム・レイクスターズとのカレー作りのほか、毎年恒例となっている、宝酒造・紀文おせち料理教室なども好評いただいています。

▲稲作体験

▶2018年度収穫体験・料理教室

実施日	内 容	場 所	参加者数
3月17日	日生かき剥き体験	岡山県備前市	親子38名
5月21日	稲作体験（植付け）	滋賀県彦根市	親子13組38名
6月16日	金沢すいか収穫体験	石川県金沢市	親子15組34名
6月23日	きゅうり・玉ねぎ収穫体験	滋賀県近江八幡市	親子16組38名
6月30日	あさり漁体験	三重県伊勢市	親子17組37名
9月22日	稲作体験（収穫）	滋賀県彦根市	親子40名
10月21日	大豆収穫体験	滋賀県竜王町	親子21組78名
11月17日	みかん収穫体験	和歌山県田辺市	親子15組35名
10月13日	さつまいも収穫体験	徳島県鳴門市	親子17組40名
11月23日	したいけ収穫体験	京都府南山城村	親子12組28名

HATOC夏祭りで地域の皆さまと交流

2018年8月4日、昨年に引き続き、平和堂本部前駐車場を開放して、第２回HATOC夏祭りを開催し、地元の方々を中心に約5,000名がご来場されました。さまざまな縁日や屋台の他、盆踊りや大抽選会など多くの方々に楽しんでいただき、地域とのコミュニケーションを深めることができました。

◀多くの地元の方々にご参加いただきました。

クッキングサポート　キッズイベントの実施

アル・プラザ京田辺のクッキングサポートでは、地域の子どもたちに作ること・食べることの楽しさや大切さを伝えたいという思いから、毎月4～5回キッズイベントを開催しています。ただ作って食べるだけではなく、その時の使用食材や料理に関する豆知識などをクイズ形式で楽しく学ぶ場となっています。

クッキングサポート実施店舗 **28**店舗

▶2018年度新規導入店舗（6店舗）
- ・アル・プラザあまがさき
- ・アル・プラザ亀岡
- ・アル・プラザ城陽
- ・アル・プラザ堅田
- ・フレンドマート健都店
- ・フレンドマート交野店

【アル・プラザ京田辺のさまざまなイベント】

①応募型イベント（毎月２回）
旬の果物や野菜などを使ったデザート作り、ピザ作りなど

②自由参加型のイベント
野菜スタンプやアイシングクッキー作りなど

③店全体のイベント
クリスマスやハロウィンなど季節の行事

旬のフルーツを使ったタルト作りはイチバン人気!!

応募型のイベント

調理をメインにした教室は午前・午後合わせて40人の定員がいっぱいになるほど大人気。

▲毎回、子どもたちは真剣に取り組んでくれます。おいしそうにでき、大満足です。

▲楽しいお話やクイズは大人気！お母さんも聞き入っておられます。

自由参加型のイベント

「食」を通した学びがたくさんあり、子どもから大人まで興味をひく工夫がいっぱい。

切り口のいろんな野菜の▶スタンプで「うちわ作り」

紫キャベツをゆがいた液体にレモンや重曹などいろいろな物を加えるとそれぞれ違う色に変化します。

▲「紫キャベツの色の変化」

店全体のイベント

クッキングサポートを中心に店舗全体のイベントを実施。社員も子どもたちと一緒に楽しんでいます。

▲ハロウィンには一昨年の仮装大会以来、お店にはお気に入りの衣装で変装した子どもたちがたくさんいます。

▲クリスマスイベントには200名もの子どもたちが集まってくれました。

[VOICE] 子どもたちに喜んでいただくために

メンバーの声

お買い物だけではなく、楽しい時間や体験をしていただけるよう、他のメンバーとアイデアを出し合い工夫しています。イベントを通してより多くの地域の子どもたちの笑顔あふれるお店を目指しています。

アル・プラザ京田辺　クッキングサポート　澤田 真弓

▲（岐阜県／小野幼稚園の皆さんと）

◀（滋賀県／大宝カナリヤ保育園の皆さんと）

▲講座（京都府／東部保育所の皆さんと）

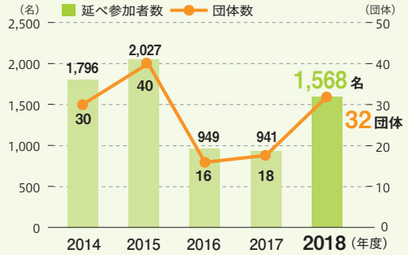
5A DAY（ファイブ・ア・デイ）※1食育体験ツアー

平和堂では、1日に5皿分（350g）以上の野菜と200gの果物を食べましょう！という内容を楽しく学習できる食育体験ツアーを開催しています。1日に必要な野菜・果物の量を座学やゲームを通して学ぶ本ツアーは、地域への食育活動の一つとして取組みを強化しており、2018年度は、社内で初めて食育インストラクター養成講座を開催しました。食育インストラクターは12名まで増え、主に幼稚園・保育園の5歳児を対象にツアーを運営しています。さらに、講座で得た知識を店頭でも活用していこうと計画しています。

※1　5A DAY 運動
がんや生活習慣病の予防対策として世界30カ国以上で展開されている食生活改善運動。平和堂はファイブ・ア・デイ協会の会員となり、野菜・果物摂取を推進する食育活動を行っています。

▲お礼のお手紙が届きました（石川県／こばと第2こども園）

▶「5A DAY 食育体験ツアー」参加者数の推移



PICK UP! 5A DAY食育インストラクターが12名になりました！

店舗近隣の園児や児童を対象に、青果売場で行っている食育体験ツアーの講師を社内育成する取組みとして養成講座を実施し、2018年度までに12名の食育インストラクターが誕生しました。地域の食育活動に積極的に取り組んでいきます。

アル・プラザ野洲 青果
夜野 早苗先生

アル・プラザ京田辺 青果
尾中 克匡先生
（現・アル・プラザ醍醐食品副店長）

アル・プラザ高槻 青果
髙部 格先生
（現・経営戦略室）

尾西店 青果
小林 奈々恵先生

アル・プラザ鶴見 青果
川村 篤志先生

ビバシティ平和堂 クッキングサポート
大橋 千雅子先生

アル・プラザ京田辺 クッキングサポート
澤田 真弓先生

アル・プラザ栗東 クッキングプラザ
佐々木 美子先生

フレンドマート日野店 サービス
堀江 清美先生

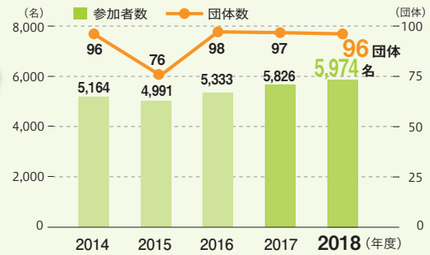
管理栄養士の川口さん（写真上・カスタマーリレーション部）と CSR 推進室と一緒に取り組んでいます。

子ども環境学習「平和堂エコピースクラブ」

2018年度は5,974名の児童の皆さんに参加いただきました。

平和堂オリジナル教材で、店頭で回収された牛乳パックや食品トレーのリサイクルについて調べたり、店舗を見学して働く人の仕事について学んだりする「平和堂エコピースクラブ」。楽しく学習できる環境プログラムで小学3年生の授業として活用いただいています。

▶「エコピースクラブ」参加者数の推移



PICK UP! びわ南小学校職場見学　フレンドマート長浜平方店【10月17日（水）】

びわ南小学校の職場見学を実施しました。当日はエコについてのお話を中心に、職場で働く人たちや、その様子を見ていただきました。普段見ることのできない場所に児童はもちろん、先生も感動され、「また買い物に来ます」と皆さん大喜びでした。今後も地域のお客様に喜んでいただけるよう、貢献していきます。

▲見学後に作成された新聞がお礼と一緒に届きました！

店長からのお話

稲葉店長のお話を真剣に聞く児童たち。エコチャレンジシートを持った売場見学組と、でんでん帽とマスクをしたバックルーム見学組に分かれました（その後交代で見学）。

売場見学組

野菜売場で地産地消の勉強。地元の野菜を探してもらいました。その他、エコバスケット、資源回収ボックスは何を集めて、どんなものにリサイクルされているか勉強しました。

バックルーム見学組

鮮魚では中野主任に実際に鯛をさばいてもらいました。衛生管理から、作業場の温度など細かく設定されていることを説明し、みんな興味深く話を聞いていました。

デリカではコロッケやパンの匂いにみんな『おいしそー』との声。寿司作業場では自動のシャリ玉ロボットに驚いていました。

低炭素社会の実現

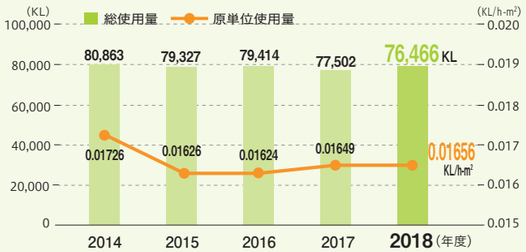
省エネ設備に切替え、
地球温暖化防止に努めています。

2018年度は、北陸電力様の指導による空調運用改善の取組みを、京阪、滋賀、東海地域へ拡大しました。また、昨年に引き続き、冷凍平ケースに硝子扉を設置して省エネ、カビ対策を実施、新型節水栓設置、新型高効率冷蔵冷凍ケース、空調の更新、照明器具のＬＥＤ化を行いました。

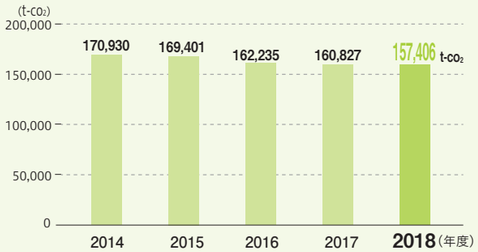
さらに新たな取組みとして、冷凍設備、電気設備等に省エネ機器を設置し、検証等を行っています。全店でも省エネ対策に取り組んだ結果、全店直営昨年対比で、電気使用量を2,935千KWH（△1.0%）削減、水道使用量3,202千トン（△2.4%）削減、ガス使用量146千㎥（△5.1%）削減、重油75千トン（△4.8%）削減しました。

▲吸収式冷温水発生器をチラーに更新（坂本店）

▶一次エネルギー年間使用量の推移
（電気・ガス・石油類を原油量に換算）



▶CO_2排出量の推移



「平和の森づくり」活動

平和の森づくり、「健康」をテーマに活動

▲伐採した木を使って棚づくりを体験

平和堂では、社員とその家族のボランティアによる森林保全活動「平和の森づくり」を福井県、滋賀県、京都府、岐阜県の4府県5か所で展開しています。

2018年度は、森づくりを楽しみながら心と体の「健康」維持と促進を目的とした新しいメニューを取り入れ、第1回目となる東近江市愛郷の森では「森林セラピー散策」を行いました。講師に松尾扶美さん（林業専門誌にも掲載されている林業女子）をお迎えし、森林保全活動が終了後、希望者を募って20名で実施。愛郷の森に自生しているさまざまな木々の葉っぱを触ってみたり、葉っぱの笛を作ってみたり、自然に親しんだ約１時間の散策を楽しみました。

[VOICE] 活動を通して自然の大切さを伝える

事務局の声

私たちkikitoは、森林とともに豊かに暮らしていける未来を目指し、人の営みと森林が結びつくカタチをていねいに育てようと活動する団体です。

東近江市愛郷の森での「平和の森づくり」活動では、活動全体のコーディネートに携わらせていただいており、2018年度は健康をテーマに森林セラピー散策や間伐材を活用したクラフト教室などの催しを提供しました。森林活動を楽しむメニューをたくさん用意し、今後は滋賀の愛郷の森だけでなく、福井県や京都府、岐阜県の森づくり活動にも参加してまいります。

一般社団法人kikito　事務局長　田中 一則 様

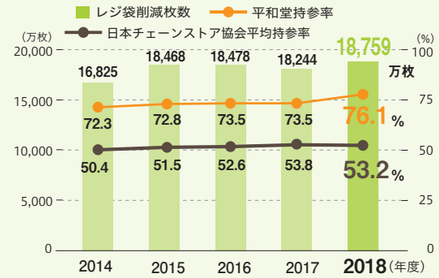
お買い物袋持参運動

大阪府北摂地域のレジ袋の無料配布中止
大阪府で初めての有料化

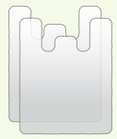
お買い物袋の持参は、包装ゴミの減量と石油資源の使用量削減に繋がります。お客様の毎日のご協力が地域環境保全に大きな効果をもたらしています。

2018年6月1日、大阪府の北摂地域7市3町と平和堂を含む10事業者が協定を締結して、レジ袋の無料配布中止に踏み切りました（平和堂対象店舗は高槻市、吹田市、茨木市の9店舗）。隣接する行政機関が連携して環境保全に取り組む事例は全国的にも初めてであり、同地域のお買い物袋持参率は約80%まで上昇しています。この影響もあり、2018年度の平和堂全店におけるお買い物袋持参率は昨年を2.6ポイント上回りました。また、エコバスケットは13,496個販売しました。

▶お買い物袋持参率とレジ袋削減量の推移



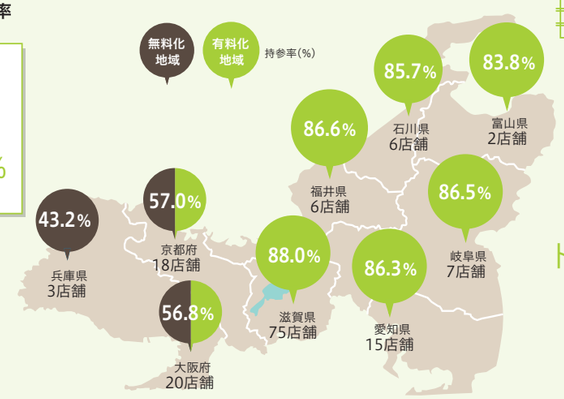
2018年度レジ袋削減枚数
18,759 万枚



原油を節約
ドラム缶 **13,379** 本分

▶府県別お買い物袋持参率

全152店舗（平均）
76.1 %



「平和の緑づくり」活動

「平和の緑づくり」活動が
愛知県に拡大しました。

平和堂は一部地域を除いて、環境保全活動の一環として食品売場のレジ袋の無料配布中止に協力しています。有料で販売したレジ袋の販売収益金は府県の緑化推進会などに寄附し、地域の小学校や幼稚園の緑化に役立てていただく「平和の緑づくり」活動が広がっています。

2018年度は、新たに愛知県へも活動が広がって4か所の小学校で植樹を行い、滋賀県11か所、石川県2か所、京都府２か所と合わせて合計19か所で緑化活動を実施しました。

▲京都市太秦保育園にて、園児と記念植樹
（フレンドマート梅津店 林泰彦店長）

[VOICE] 植樹を通して地域に貢献

社員の声

2018年7月19日、近隣店舗を代表して、つつじが丘小学校の「つつじエコレンジャープロジェクト」完成式典に出席し、63名の児童といっしょにつつじの苗木を植えました。

つつじが丘小学校にはこれまでは校名である「つつじの木」が1本もなかったので、ようやく念願が叶ったと感謝してもらえ、とても嬉しく感じた植樹式でした。今後も地域貢献活動に積極的に参加し、地域に愛される平和堂の取組みを広げたいと思います。

平和堂ビバモール名古屋南店 店長　髙森 邦泰
（現・東海営業部　東海第二グループマネージャー）

循環型社会への貢献

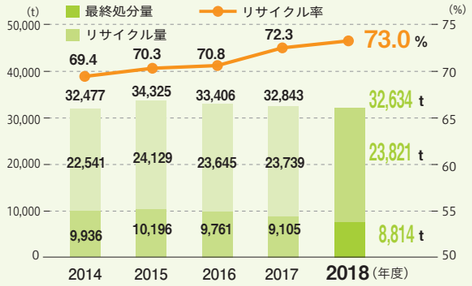
廃棄物の削減と再資源化に取り組み 循環型社会の実現を目指しています。

廃棄物の削減

廃棄物のリサイクル率を向上させ、最終廃棄処分量を削減するために、廃棄物の総発生量・リサイクル量・最終処分量を管理しています。

2018年度の廃棄物発生量は32,634tで、前年に比べ209t削減することができました。また、リサイクル率も73.0%と前年に比べ0.7ポイント上げることができました。

▶廃棄物の発生量とリサイクル量の推移



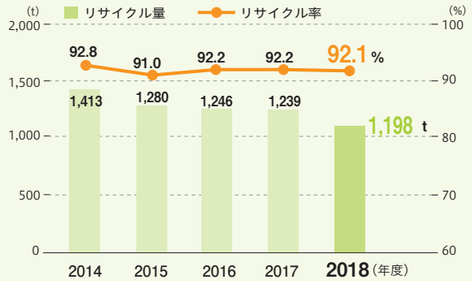
平和堂リサイクルセンター

自社施設「平和堂リサイクルセンター」にて、資源の有効活用に取り組んでいます。ここでは、店頭回収したペットボトルや納品用ハンガーなどのプラスチック類、不要になった不燃物などを回収し、プラスチック・金属・ガラスなど、種類ごとに手選別で解体・分別しています。

分別されたものは固形燃料（RPF）化等の処理をしてリサイクルされており、特にプラスチック類は、素材ごとに破砕処理することで、リサイクル率を向上させています。

2018年度のリサイクル率は、92.1%で1,198tを資源として再活用できるようにしました。

▶平和堂リサイクルセンター処理量の推移



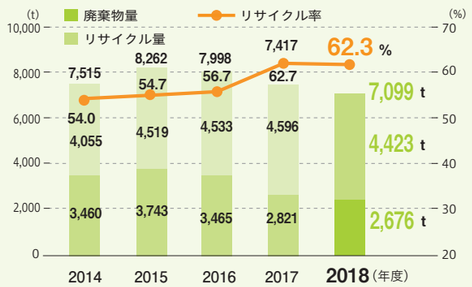
食品廃棄物リサイクル

店舗で発生する食品廃棄物の抑制に取り組むとともに、食品リサイクルを推進しています。

2018年度の発生量は、7,099tと前年に比べ318t削減することができました。

この食品リサイクルにより堆肥化された野菜くずは「循環エコ野菜」に活用されるほか、リサイクル飼料として、畜産にも利用されています。

▶食品廃棄物リサイクル量の推移



資源ごみを回収し、リサイクルを推進しています。

店頭での容器回収

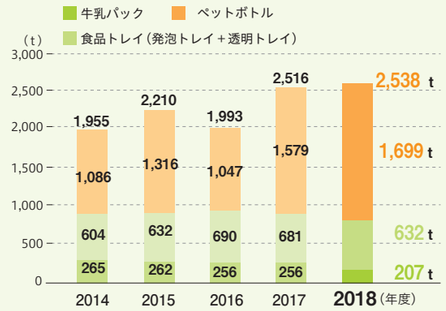
地域のリサイクル活動に貢献できるよう、店頭に専用回収BOXを設置し、使用済みの牛乳パック、食品トレイ（発泡・透明）、ペットボトルの回収を行っています。

リサイクルステーション

2010年から開始したリサイクルステーション（えこすぽっと、Rステーション、ecoひろば※1）は現在58店舗まで拡大しました。お客様が持参された資源の重量に応じて専用カードにポイントが加算され、500ポイントで平和堂商品券と交換することができ、大変好評です。

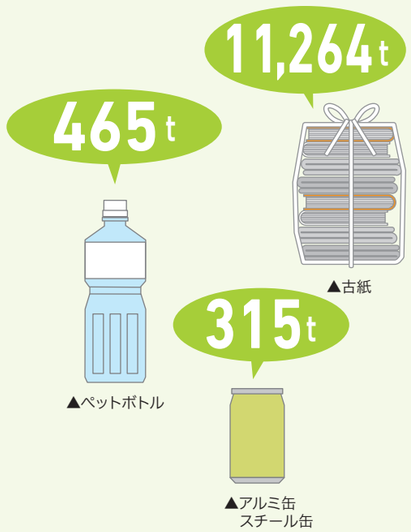
※1 ecoひろばは、5,000ポイントで平和堂商品券と交換になります。

▶店頭回収量の推移



▶リサイクルステーション設置店舗数

▶リサイクルステーション回収実績（2018年度）



環境教育・啓発

平和堂環境教育DVDを新たに作成しました。

ISO14001 2015年版への移行に伴い、社内環境教育で使用していた「環境教育DVD」を新たに製作し、全社員に視聴してもらいました。このDVDでは、平和堂環境マネジメントプログラムの運用の流れについて項目ごとに具体的に説明し、PDCAのサイクルがわかりやすくなっています。

また、DVDの最初と最後には平松社長に登場していただき、平和堂の環境への取組みについてお話していただいており、全社挙げての教育を展開しています。

▲環境教育DVD

子ども食堂への支援

滋賀県内の子ども食堂を応援しています。

滋賀県内にある子ども食堂※1は全国的にみても非常に多く、現在120か所を超えています。平和堂では2017年11月に滋賀県社会福祉協議会が中心となって立ち上げた「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト※2」のスポンサー第1号として寄付・支援を始めました。

年2回（夏・冬）、滋賀県内全店舗において「子ども食堂応援募金」を実施し、春と秋の寄付金贈呈時に募金分として別途で贈呈しています。

※1　子ども食堂
貧困家庭や孤食の子どもに対し、食事や安心して過ごすことのできる場所を提供することを目的に始められた社会活動で、最近では地域のすべての子ども、親、地域の大人など、対象を限定しない食堂も増えています。地域のボランティアなどで運営し、公民館等の公的施設で月１～２回程度開催の食堂が多いです。

※2　子どもの笑顔はぐくみプロジェクト
滋賀県社会福祉協議会が事務局となり、知事や県経団連会長等が呼びかけ、スポンサーを募集し、子ども食堂支援を中心に子どもを守ることを目的にしたプロジェクト。

寄付・支援状況

- 2018.3.27　上期分　**285万円（商品券）103食堂分**
  858,515円（募金分）※2017.12.5～2018.2.20募金実施
- 2018.9.25　下期分　**319.2万円（商品券）122食堂分**
  431,779円（募金分）※2018.7.1～8.20募金実施

▲彦根市の子ども食堂の皆さんが来社

▲彦根市内の7つの子ども食堂の皆さんから「ありがとう」の感謝の気持ちをメッセージボード（手作り絵画）にしていただきました。

地域コミュニケーションの推進

活気ある社会の実現に向けた活動に取り組んでいます。

地域スポーツ振興

第45回記念！滋賀県知事杯争奪（第27回若ハト杯）平和堂ママさんバレーボール大会

平和堂は地域のスポーツ振興を目的に、滋賀県のママさんバレーボール大会を支援しています。1974年から始まったこの大会は、2018年は45回目の記念大会となり、各地区ブロック予選から勝ち上がった26チームが本大会へ進み、さらに勝ち進んだ12チームで決勝トーナメント（8/25守山市民体育館）を行い、本大会に出場した全選手に45回記念のはとっぴーグッズをプレゼントしました。

▲平和堂ママさんバレーボール大会

第35回平和堂カップ福井綱引大会

平和堂は1986年から福井綱引大会を支援しています。2019年2月17日、サンドーム福井（福井県越前市）にて、第35回となる2018年度の大会が開催され、北陸はもとより関西や東海地区からも集まった115チーム1,426名が出場しました。子どもの部では保護者の熱い応援で盛り上がる一方、大人の部では、綱がきしむ音がするほどの迫力のある緊迫した試合が繰り広げられました。

今年は、初めて平和堂から2チームが「エンジョイの部」で参加しました。

▲熱戦が繰り広げられた綱引大会

文化振興

第37回平和堂春休み親子劇場

平和堂は「小さな胸に大きな感動」をテーマに子どもたちに夢と感動を与える情操教育の機会を提供する催しとして、世界の名作を題材としたぬいぐるみミュージカル「春休み親子劇場」を開催しています。37年目を迎えた2018年度は、「3びきのこぶた」と「ブレーメンのおんがくたい」の2本立て、5つの会場で8公演を開催し、延べ8,300名のご家族に観劇いただきました。

企業との協賛

伊藤園ヨシ刈体験

2019年1月、守山市木浜町において「琵琶湖環境保全活動」の一つであるヨシ刈体験が開催され、三日月大造滋賀県知事、宮本和宏守山市長をはじめ約280名が参加しました。

また、「琵琶湖を、もっと美しく。」をテーマに参加者全員で湖岸清掃活動を行い、侵略的外来植物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動を行いました。体験後は、バスで琵琶湖博物館に移動し、ヨシ笛演奏を聴きながら昼食。その後、琵琶湖博物館の見学やお茶セミナー、積み木体験などを楽しみました。

▲参加者の皆さん

▲ビワイチ応援フェア

◀専用木製ラック

▲ビワイチエイドステーション

ビワイチ※3をサポート

2018年3月、平和堂は、サントリーフーズ株式会社様、サントリー酒類株式会社様と協働して、滋賀県内全店舗をビワイチの「サイクルサポートステーション」として登録、ビワイチサポートプロジェクトを開始し、滋賀県と連携した活動を推進しています。

また、2019年3月10日に開催されたびわ湖一周ロングライドでは、エイドステーションの彦根市を平和堂が担当し、バナナやチョコ、飲料等をサイクリストに提供、約1,500名の参加者をサポートしました。

1. 滋賀県内全店舗（75店舗）を「サイクルサポートステーション」として登録

①専用の木製サイクルラック（日野町の県産材を使用）の設置
②空気入れ・工具の無料貸し出し
③パンク時に備え交換用チューブを販売

2. ビワイチ推進のための寄付活動

「ビワイチ応援フェア」を開催、サントリー対象商品の売上の一部と平和堂からの寄付を合わせて、ビワイチサイクリングマップの制作に寄付しました。このサイクリングマップは県内の全サポートステーションでサイクリストに無料配布されています。

※3　ビワイチ
びわ湖一周約200ｋｍを自転車で一周すること。滋賀県では観光交流局に「ビワイチ推進室」を設置し、より多くの方にビワイチを安全・安心に楽しんでもらえるように取り組んでいます。

環境マネジメント

全店でISO14001の認証を取得しています。

平和堂は、環境の国際規格（ISO14001）の認証を本部および全店で認証取得しており、社長をトップとした組織体制で環境マネジメントシステム（EMS）を運用しています。2018年度は8項目の目標のうち、3項目で目標を大幅に上回り、3項目で目標達成しました。

しかし、CO_2排出量の削減、平和堂エコピースクラブの拡大については目標未達成でした。

社会情勢の影響により、達成に至らなかった項目もありますが、それぞれの原因分析と共に、目標達成できる取組みを進めていきます。

▶2018年度の実績と2019年度の目標

◎ 目標を大幅に上回る　○ 目標達成　△ 目標未達　× 目標を大幅に下回る

環境方針	2018年度目標		2018年度実績		2019年度目標	
環境に配慮した商品づくりと提供を推進します	環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上 2017年度実績 120.5億円	123億円	13,126,547千円 （昨年比：108.9%）	◎	環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上	133億円
省エネルギー・省資源を推進します	一次エネルギー使用量の削減（電気・ガス・石油類） エコストア省エネ設備導入推進 2017年度対比（原単位）kwh/h・㎡	1%削減	0.071kwh/h・㎡ 1.44%削減（原単位） （昨年：0.073kwh/h・㎡）	○	一次エネルギー使用量の削減（電気・ガス・石油類） エコストア省エネ設備導入推進 （原単位）2018年度対比	1%削減
	配送車両の使用燃料の削減 センター集荷便数2017年度対比 （1店舗あたり月平均）	1%削減	年度計便数 平均 176便 6.5%削減	◎	配送車両の使用燃料の削減 センター集荷便数2018年度対比 （1店舗あたり月平均）	1%削減
	水道使用量の削減 2017年度対比（原単位）㎥/h・㎡	1%削減	0.328㎥/h・㎡ 1.83%削減（原単位）	○	水道使用量の削減 （原単位）2018年度対比	1%削減
	紙の使用量削減 コピー用紙・POP用紙使用枚数 2017年度対比既存店総枚数/枚	1%削減	48,557千枚 7.1%削減	◎	紙の使用量削減 コピー用紙・POP用紙使用枚数 2018年度対比既存店総枚数/枚	1%削減
地球温暖化防止のため、CO_2排出量を削減します	CO_2排出量の削減 2017年度対比（原単位）	1%削減	36.088t-CO_2/h・㎡ 0.68%削減	△	CO_2排出量の削減 （原単位）2018年度対比	1%削減
廃棄物の削減と資源の有効活用に取り組みます	生ゴミのリサイクル率の向上 2017年度実績 62.0% （魚アラ・廃食油リサイクル等）	62.3%	62.3% （昨年比100.5%）	○	生ゴミのリサイクル率の向上 生ゴミ・魚アラ・廃食油リサイクルの推進	62.6%
地域社会の環境保全活動を支援します	平和堂エコピースクラブの拡大 子ども環境学習への参加団体の増加 2017年度実績97団体	100団体	累計実施回数112回 96団体	△	平和堂エコピースクラブの拡大 子ども環境学習への参加団体の増加	100団体

環境会計

環境に配慮した経営を効率的に推進しています。

平和堂では、環境保全のための投資や費用を定量的に管理し、その効果を金額として把握することで、取組みの一層の効率化を図るとともに、合理的な意思決定を行うための環境会計に取り組んでいます。

集計範囲　株式会社平和堂（単体）　対象期間　2018年2月21日～2019年2月20日

▶環境保全コスト

（単位：千円）

分類		主な取組み内容	2017年度 投資額	2017年度 費用額	2018年度 投資額	2018年度 費用額
(1) 事業エリア内コスト			1,080,100	933,185	**894,500**	**926,075**
内訳	(1)-1 公害防止コスト	空調設備・排水設備の管理・検査ばい煙測定・微量PCB調査費		137,092		**143,969**
内訳	(1)-2 地球環境保全コスト	省エネ設備（空調・冷凍機・照明）導入 フロン回収破壊費	1,080,100	800	**881,930**	**800**
内訳	(1)-3 資源循環コスト	廃棄物のリサイクル・処理費リサイクルセンター運営費		795,293	**12,570**	**793,624**
(2) 上・下流コスト		容器包装リサイクル法再商品化委託料・お買い物袋持参エコポイント費		191,914		**138,815**
(3) 管理活動コスト		ISO審査登録コスト・専任者人件費 社員教育・CSR報告書作成費		33,294		**32,017**
(4) 研究開発コスト		—	—	—	—	—
(5) 社会活動コスト		平和の森づくり・有料レジ袋収益金寄附 環境展出展・子ども環境学習		15,859		**14,419**
(6) 環境損傷対応コスト		—	—	—	—	—
合計			1,080,100	1,174,252	**894,500**	**1,111,326**

■環境保全効果

①事業エリア内コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標（単位）	2017年度	2018年度
事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量（MWh）	282,629	**280,149**
	ガス使用量（千m^3）	2,810	**2,848**
	重油・灯油使用量（kl）	1,675	**1,579**
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	軽油使用量（kl）	5,434	**5,241**
	水道使用量（千m^3）	1,544	**1,508**
	CO_2排出量（t-CO_2）	160,827	**157,406**
	廃棄物総排出量（t）	32,843	**32,634**
	廃棄物最終処分量（t）	9,105	**8,814**
	排水量（千m^3）	1,544	**1,508**

②上・下流コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標（単位）	2017年度	2018年度
事業活動から産出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用削減枚数（千枚）	182,443	**187,586**
	牛乳パック回収量（t）	256	**207**
	食品トレイ回収量（t）	681	**632**
	ペットボトル回収量（t）	1,579	**1,699**

■環境保全対策にともなう経済効果

（単位：千円）

効果の内容		2017年度	2018年度
収益	店頭回収品リサイクル売却益	33,689	**37,831**
	有料レジ袋収益金	6,635	**7,486**
費用節減	省エネ設備導入効果	110,028	**115,325**
	お買い物袋持参推進による レジ袋費の節減	450,514	**464,584**
	レジ袋使用減による容リ法再商品化委託料の節減	47,002	**45,890**
	リサイクル推進による廃棄物処理費の節減	10,613	**9,310**
合計		658,481	**680,426**

CSR活動一覧

「5つのハトのお約束」に基づく独自のCSR活動

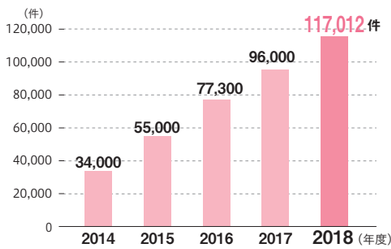
平和堂は経営理念でもある「5つのハトのお約束」に基づいて、CSRの取組み項目を整理し、各担当部署を中心に活動を推進しています。具体的な取組み内容については、42ページの一覧表をご覧ください。

CSR活動のあゆみ

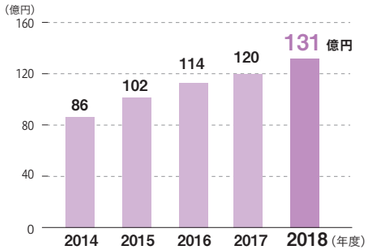
- 1972 ・「5つのハトのお約束」を制定、売上高を「ご奉仕高」、粗利益高を「創造高」に社内用語として統一
- 1980 ・「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」施行にともない、リンを含む合成洗剤の販売停止、せっけんの取扱い拡大
- 1991 ・社員の多様な働き方を支援する「ゆとりライフ制度」を開始
  ・「環境問題特別委員会」を設置し、全社的な環境保全活動をスタート
  ・お買い物袋持参運動をスタート
- 2000 ・環境対策室（現 CSR推進室）設置
- 2001 ・「EMS委員会」を設置し、環境マネジメントシステムの導入を決定
- 2004 ・本部および全店舗でISO14001の認証を取得
- 2007 ・森林保全活動「平和の森づくり」スタート
- 2010 ・地域貢献事業「平和堂ホーム・サポート（買い物代行）サービス」スタート
- 2014 ・滋賀県の緑化推進活動「平和の緑づくり」スタート

CSR活動の主な指標

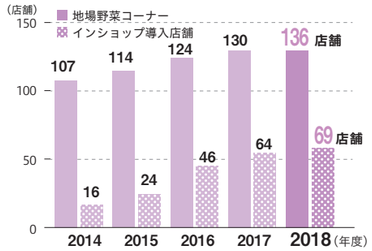
■ホーム・サポートサービスご依頼件数の推移



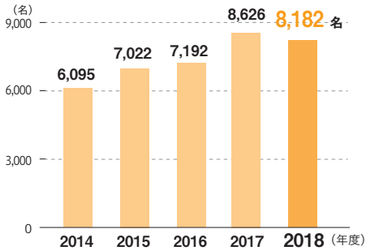
■環境セレクト商品販売額の推移



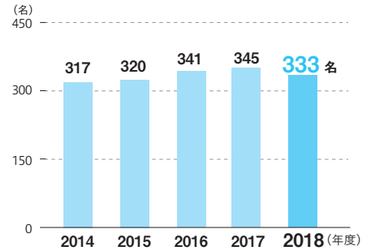
■「地場野菜コーナー」取扱い店舗数の推移



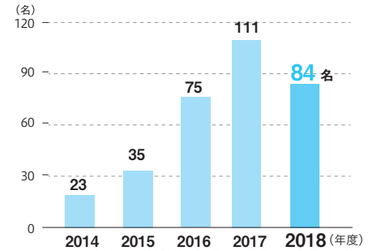
■株主数の推移



■ゆとりライフ制度利用者数の推移

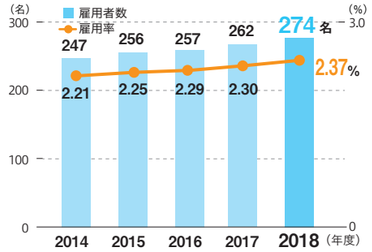


■女性キャリアアップ研修参加者数の推移

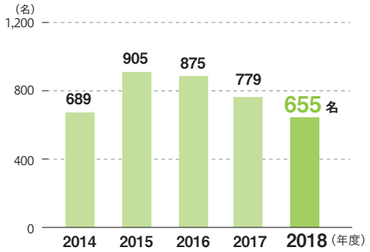


※2017年度以降は基礎編・中級編・上級編の合算

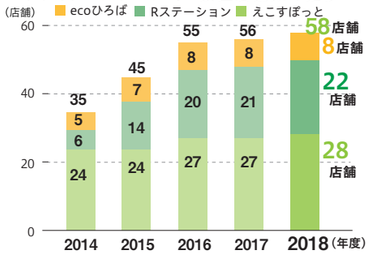
■障がい者雇用者数・雇用率の推移



■「平和の森づくり」参加者数の推移



■リサイクルステーション設置店舗数の推移



■持続可能な開発目標とは

2015年9月に国連本部にて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ここで掲げられた17の目標と169のターゲットが「持続可能な開発目標（SDGs）」です。平和堂は事業活動を通じて世界共通の課題の解決に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

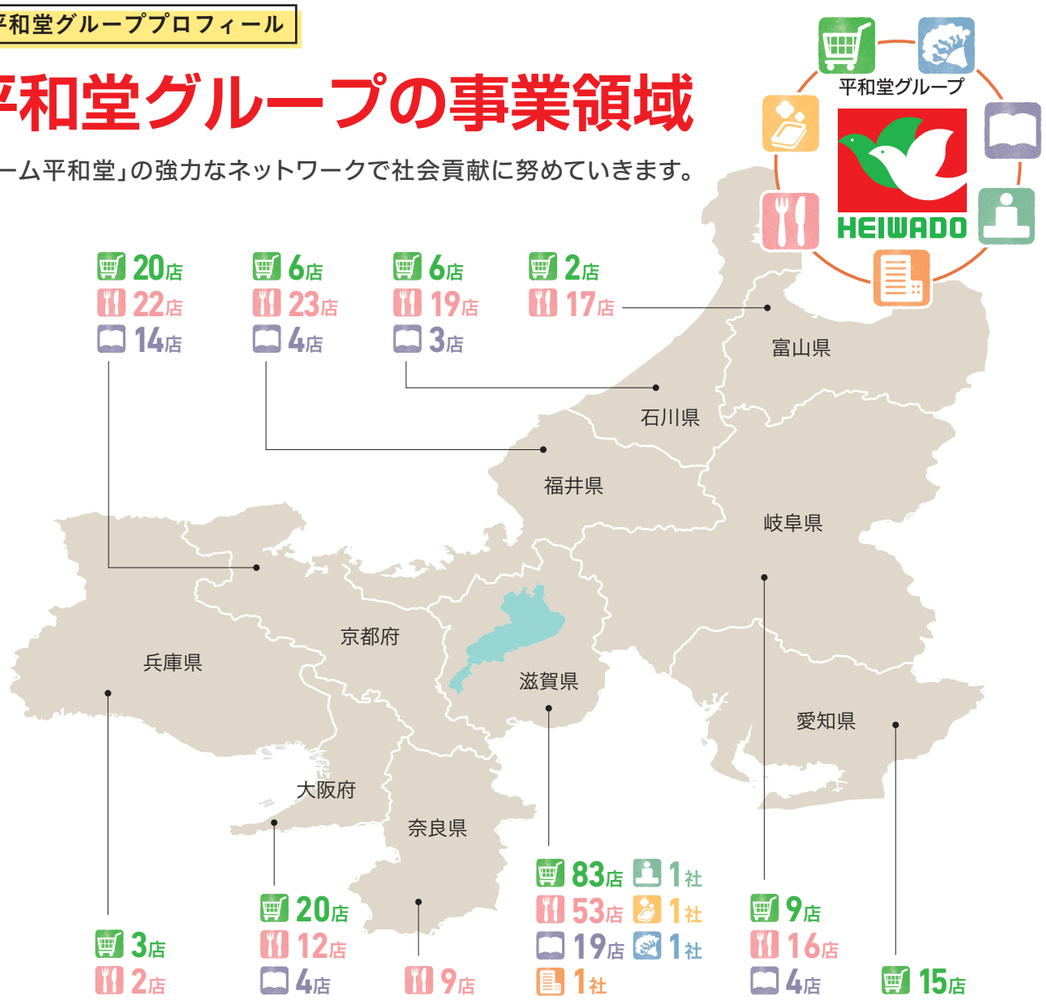
	2018年度の取組み項目	ページ数	今後の課題	ISO26000中核主題	SDGs
奉仕のハト	●ノーマライゼーションの推進	P11	・地域社会へのより積極的な貢献活動 ・協働による地域課題の解決 ・SDGsなど国際イニシアチブ※1への対応	人権 消費者課題 コミュニティへの参画	9 10 11 12
	●お客様の声に基づく企業経営	P12			
	●平和堂ホーム・サポートサービス	P13			
	●お客様満足度向上に向けたICTの活用	P14			
創造のハト	●地産地消の推奨	P15	・地域社会へのより積極的な貢献活動 ・協働による地域課題の解決	環境 消費者課題 コミュニティへの参画	2 11 12
	●食品リサイクル（循環エコ野菜）	P15			
	●平和堂ストアブランド「E-WA!」	P16			
	●近江の魅力、発見	P16			
	●旅を通じて地域貢献	P17・18			
感謝のハト	●安全・安心な商品の提供	P19・20	・品質管理体制のさらなる充実 ・バリューチェーンマネジメントの強化※2 ・よりニーズの高いIR情報の開示 ・ESG投資※3を意識したエンゲージメント※4	組織統治 公正な事業慣行 消費者課題	12 16
	●公正・公平な取引の推進	P21			
	●法令順守のための社員教育	P21			
	●適切な情報開示	P22			
	●株主優待制度のご案内	P22			
友愛のハト	●ピカピカ実現活動	P23・24	・働きやすく能力を活かせる労働環境の整備 ・より有効な研修、教育制度の開発 ・多様な働き方のための支援制度のさらなる充実	人権 労働慣行	5 8 16
	●人材育成	P25・26			
	●女性活躍推進	P26			
	●多様な人材の雇用	P27			
	●多様な働き方の推進	P27			
	●安全・労働衛生	P28			
	●人権啓発活動	P28			
平和のハト	●地域の健康のために	P7	・長期環境ビジョン策定 ・CO_2排出量のさらなる削減 ・再生可能エネルギーの活用 ・ゼロ・エミッション※5へのチャレンジ ・SDGsなど国際イニシアチブへの対応	環境 消費者課題 コミュニティへの参画	2 3 4 6 7 13 14 15
	●食育推進活動	P29・30・31			
	●子ども環境学習「平和堂エコピースクラブ」	P32			
	●低炭素社会の実現	P33			
	●「平和の森づくり」活動	P33			
	●お買い物袋持参運動	P34			
	●「平和の緑づくり」活動	P34			
	●循環型社会への貢献	P35・36			
	●環境教育・啓発	P36			
	●子ども食堂への支援	P37			
	●地域コミュニケーションの推進	P37・38			
	●環境マネジメント	P39			
	●環境会計	P40			

※1「国連グローバル・コンパクト」や「GRI」、「ISO26000」、「SDGs」などの国際的な原則や目標、ガイドライン。
※2 原材料の調達から製品・サービスがお客様に届くまでの一連の活動を適正に管理すること。
※3 環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字からなる、企業の成長に欠かせない3つの観点を重視した投資。
※4 情報交換や対話などを通じて、より積極的に関わり合う双方向のコミュニケーション。
※5 廃棄物の削減やリサイクルによって、廃棄物の排出をゼロにする仕組み、取組み。

平和堂グループプロフィール

平和堂グループの事業領域

「チーム平和堂」の強力なネットワークで社会貢献に努めていきます。



小売業

- ㈱平和堂 152店舗
- 平和堂(中国)有限公司 4店舗
- ㈱エール 2店舗
- ㈱丸善 8店舗
- ㈱ヤナゲン 2店舗

惣菜等の製造・加工・販売

- ㈱ベストーネ 1社
  - 旨季や 1店舗

農業生産

- ㈱サニーリーフ 1社

飲食店・アミューズメント施設

- ㈱ファイブスター
  - ファミリーレストランCOCO'S 78店舗
  - すし処海座本店 1店舗
  - 廻鮮寿司海座 4店舗
  - いちおしや伝五郎 10店舗
- ㈱シー・オー・エム
  - ケンタッキーフライドチキン 25店舗
  - サーティーワンアイスクリーム 12店舗
  - スティック・スイーツ・ファクトリー 1店舗
  - サブウェイ 1店舗
  - リンガーハット 4店舗
  - ビアードパパ 2店舗
  - フードコート 4店舗
- ㈱ユーイング
  - 吉兵衛、うまか亭、あじ彩など アミューズメント、ボウリング場 31店舗

書籍・CD・DVDの販売、レンタル

- ㈱ダイレクト・ショップ
  - 平和書店・TSUTAYA 47店舗
  - エニタイムフィットネス 1店舗

ビル総合管理・人材派遣

- ㈱ナショナルメンテナンス 1社

ホテル

- ㈱グランドデュークホテル 1社
  - グランドデュークホテル 1軒
  - ビジネスホテル芹川 1軒
  - 彦根カントリー倶楽部内レストラン 1店舗

(2019年2月20日現在)

PICK UP

平和堂(中国)開店20周年式典

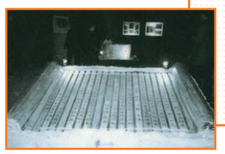
平和堂(中国)は、2018年に第1号店が開店20周年を迎えました。この20周年を記念して、2018年11月13日に長沙シェラトンホテルにて式典が開催されました。中国からは湖南省外事弁事務室の除正憲様、日本からは三日月滋賀県知事をはじめとしたご来賓の方をお迎えし、平和堂(中国)の社員、各店のテナントの皆様など総勢437名で盛大な祝宴が催されました。

平和堂(中国)の歩み

1983年 滋賀県と中国湖南省の間で友好県省協定締結

1995年 湖南平和堂実業有限公司設立(現平和堂(中国)有限公司)

▲工事中の様子


▲発見された木簡の数々

TOPICS

湖南平和堂建設中に見つかった歴史的史料!

1996年8月に工事着工。地下部分の掘削工事中、現場から約2000年前(三国志時代)の井戸の遺跡や木簡・竹簡などがでてきました。これらは、北京の考古学博物館が調査され、その後、長沙市博物館で展示される事となりました。井戸の遺跡は今も、湖南平和堂の地下に保存されています。

1998年 湖南平和堂商貿大厦(五一広場店)オープン(海外1号店)

▲開店時には、店前の広場まで人で埋め尽くされた

▲人であふれかえった店内

TOPICS

オープン初日、25万人の来店客数を記録!

素晴らしい晴天のなか迎えたオープン初日。開店の2時間前にもかかわらず、店の前にはたくさんのお客様。開店と同時に店内は人で埋め尽くされ、何度も入場制限をしながらの営業となりました。オープン初日は、25万人ものお客様にご来店いただきました。

2007年 東塘店オープン(海外2号店)

2009年 株洲店オープン(海外3号店)

TOPICS

「お客様第一」の考えを浸透させる!

それまでの中国の百貨店になかった「あいさつ」を導入・徹底。
「ファインコンリン(いらっしゃいませ)」が流行語に。

2013年 AUX(奥克斯オックス)広場店オープン(海外4号店)

2018年 平和堂(中国)1号店開店20周年

若人たちの飛躍を願って

公益財団法人平和堂財団は、株式会社平和堂の創業者・故夏原平次郎が、平和堂を今日の企業に育てていただいた地域の方々に感謝し、そのご恩に報いるため私財を寄付し、1989（平成元）年3月に設立しました。滋賀県の教育、文化、体育、環境、児童福祉にかかわる各種助成や事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。

今年、財団は設立30周年を迎えました。財団では今後も、次世代を担う若い翼を応援していきます。

財団設立30周年記念パネルの展示
（平和堂本部正面玄関）

2018年度の主な活動

1 教育事業

奨学生の集い
2018年度大学進学者奨学生23名に、年間60万円の給付型奨学金を助成しました。

▲夏原理事長による講義

▲奨学生の集いには、大学卒業OB奨学生と１回生、４回生が毎年参加しています。

いきいきすくすく淡海っ子活動
「いきいきすくすく淡海っ子活動」は、それぞれの地域で定期的、継続的に実施されている子どもたちの育成活動を行っているグループ、団体に対して、必要な活動資金を助成しています。
2018年度は20団体に総額230万円の活動費を助成しました。

▲「いきいきすくすく淡海っ子活動」募集パンフレット

2 文化事業

鳩の音楽会
平和堂財団芸術奨励賞受賞者7名による「鳩の音楽会」が９月22日から24日までの3日間で開催され、3会場で合計1,451名のお客様を無料ご招待しました。

▲2018年度「鳩の音楽会」

新進芸術家美術展
2017年度芸術奨励賞受賞者4名を含め、これまでの受賞者の中から46名の作品を展示。2会場で1,233名のお客様が来場しました。

▲2018年度「新進芸術家美術展」

芸術奨励賞贈呈式
2017年度芸術奨励賞には美術部門に4名、音楽部門に3名が受賞。受賞者に活動の支援を行っています。

▲2017年度芸術奨励賞贈呈式
（2018年3月11日開催）

3 環境事業

博物館夏祭り
7月16日の海の日に、ビバシティホールにおいて滋賀県内14の博物館が一堂に会して、子どもたちに科学・環境・文化について親しんでもらう機会として「博物館夏祭り」を開催し、約1,700人の来場者がイベントを楽しみました。

▲博物館夏祭り

子どもエコクラブ交流会
12月9日、滋賀県立博物館において「子どもエコクラブ交流会」が開催され、10団体が環境保全活動の取組みを発表しました。

▲子どもたちによる環境保全活動発表

夏原グラント贈呈式
4月14日、エストピアホテルにて「夏原グラント贈呈式」が行われ、2018年度は60団体、合計1,600万円を助成しました。

▲2018年度夏原グラント贈呈式

[VOICE]

子どもたちの未来のために

滋賀県児童福祉入所施設協議会 会長
大久保 和久様

2016年1月19日、平和堂本社社長室。
その時、穏やかにそして熱心に、子どもたちの窮状を訴える私達の話に耳を傾けてくださった夏原社長（当時）の柔和な表情は、今も鮮明に私の脳裏に刻まれています。いただいた時間をおそらくは１時間以上オーバーしても、なお話し続ける無礼者の話を、です。「子どもたちのことはとても大事なことだから、できることはしたい。」社長は最後にそう結ばれていました。それから3年。「滋賀県児童福祉入所施設協議会」は、何らかの理由で親と暮らすことができない0歳～20歳までの子どもたちが生活する施設の集まりです。平成31年1月現在、県内の施設で暮らす300人余りの子どもたちは今、「平和堂財団」から次のような手厚い支援をいただいています。

①新入学児へのランドセル・学用品の寄贈　②自動車運転免許取得の助成金　③愛のハト育英奨学金

わずか3年の間に②は助成者が20名を超え、③に至っては10名を数える子どもたちが奨学金によって、高等教育の場と機会を与えていただき、将来の夢に向かって進んでいます。写真の２人はその奨学金で今春大学に進学をします。子どもたちはやがて地域の光になります。私たち大人も力を尽くします。どうかこれからも、彼らに対して温かいご支援が続くことを関係者一同願ってやみません。

美しい日本の歌を絶やさないために

日本の童謡や唱歌といった懐かしい歌を歌われることが少なくなってきている昨今、美しい日本語で書かれた詩によって日本の風景を思い浮かべられる日本歌曲を少しでも多くの人に届けられるよう歌い続けてまいりました。かれこれ20年以上、多くのコンサートに出演させていただきましたが、どのように日本の歌の美しさを伝えるべきか試行錯誤を繰り返しています。12年前に平和堂財団芸術奨励賞の受賞をきっかけに、ガラコンサートや店舗ミニコンサートに出演させていただいています。これらのコンサートでは新たな共演者との出会いがあり、共演者のパフォーマンスに接することで、自分の表現を見つめ直すことができます。音楽を伝えることを模索する中で、最近では後進の育成にも取り組んでおり、滋賀県内の短大や高校の音楽科でも指導させていただいています。これからも日本歌曲がいつまでも歌い続けられることを願って活動を続けていきたいと思います。

声楽家　山本 久代様（芸術奨励賞受賞者（声楽））

コーポレート・ガバナンス

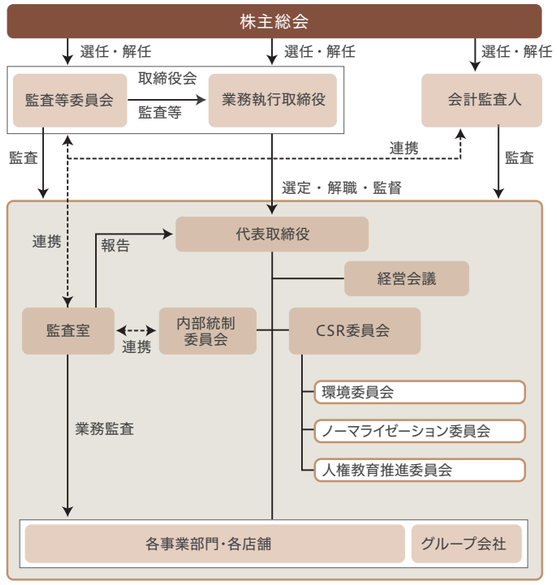
経営の効率化と公平性・透明性の向上に向けた体制を整えています。

経営上の最高意思決定機関である取締役会を毎月開催するほか、経営意思決定のための協議機関として経営会議を毎月2～3回開催するなど、経営の基本方針に基づいて業務上の主要事項を審議決定しています。取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く）7名と監査等委員である取締役4名の計11名で構成されており、取締役（監査等委員である取締役を除く）には社内出身者に加え、他企業で実務経験を積んだ人材を選任し、幅広い視点から議論を交わしています。また、監査等委員である取締役4名のうち3名は社外取締役で、幅広い視野および客観的な立場から企業戦略について総合的な助言がされています。

会社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながる対応として、当社は「コーポレート・ガバナンス・コード」への対応を積極的に推進し、その内容を踏まえた報告書を開示しています。

さらに、健全な企業活動の仕組みを整備運用する「内部統制委員会」を組織し、コンプライアンスに関する事項全般について情報収集や対策を立案し、その内容を委員長に報告・指示を受ける体制を整えています。

■コーポレート・ガバナンスに関する仕組み



■ガバナンス状況報告

URL http://www2.tse.or.jp/disc/82760/140120181126441381.pdf

コンプライアンス

コンプライアンス浸透に向けた組織・風土づくりを進めています。

コンプライアンスの維持やリスク管理、ノーマライゼーション、セクシャル・ハラスメント、接客教育の「しつけ、身だしなみ」などを周知徹底するため、従業員全員に項目別に重要ポイントをまとめた手帳タイプの「平和堂マニュアル」を配付しています。このマニュアルには「わたしたちの行動基準」という業務全般において順守すべき事項が記載されており、コンプライアンスに関する行動規範を周知するとともに、一人ひとりの意識を高めています。

また、当社はコンプライアンス・マニュアルに基づき、反社会的勢力に対して係わりを一切持たず、このような団体・個人から不当な要求を受けた場合には、警察等外部機関と連携し、関係部署が連携・協力して組織的に対応いたします。

さらに、コンプライアンスに関する従業員からの通報や相談を受け付ける内部通報窓口として「平和堂クリーンライン」と、「人権ホットライン（人権相談窓口）」を設置しています。2018年度にはこれらに加え、社外に内部通報窓口を設置し、さらなるコンプライアンス強化を図っています。

リスクマネジメント

内部統制委員会においてリスクレビューを実施し、全社的な情報共有に努めています。

事業継続計画（BCP）に関する取組み

大地震等の自然災害や甚大な被害をもたらす危機が発生した場合、当社が機能や役割を回復し事業継続することを目的とした事業継続計画（BCP）の強化に努めています。「災害マニュアル」を各店舗・本部に備えつけ、予防体制とともに災害発生時の対応を定めています。

従業員には災害時での指針や行動を記した「災害時行動心得」の配付を行うとともに、災害発生時に人命第一を基本に被害の最小化と各人の役割・行動を再確認するため各店舗・本部において消防訓練を行っています。また、災害時に社員の安否や出勤が可能かを確認する「安否確認システム」を利用した訓練も定期的に実施しています。

個人情報保護・セキュリティに関する取組み

当社では個人情報の取扱いに関する「個人情報保護方針」を定めています。方針に基づき個人情報の管理に関する「個人情報管理マニュアル」「パソコン管理マニュアル」「HOP カードマニュアル」などを整備し、個人情報の保護に取り組んでいます。

店舗で発生する事件・事故に関する取組み

当社は、各店舗において日常的に発生する事件や事故などについて素早く対応するため、社内ネットワークを利用した「事件・事故報告」によって、迅速な解決と情報を共有できる体制を構築しています。

地域との連携

行政との「災害協定」の締結

平和堂は地域に根ざした店舗を目指し、店舗エリアの地方自治体と災害協定の締結を行っています。災害時には、店舗からの物資提供や避難場所としての提供など、地域との連携を行う体制を整えています。

2018年度は、3行政と災害協定を締結および更新をし、現在全45か所と締結しています。

PICK UP! 「大阪北部地震」への災害対応

2018年6月18日、大阪府北部を震源とする地震が発生（最大震度6弱）。発災後には速やかに災害対策本部を立上げ、事業継続計画（BCP）に基づき、被災当日は5店舗が休業したものの、翌日には営業開始し被災地域のお客様のお役に立てるように対応しました。

今回の災害から社員の安否確認や、店舗の安全確認、情報発信などの課題も明らかになりました。これらの課題解決に向けて、防災対策委員会で協議し、対応を進めています。

7：58	地震発生
8：00	本部で情報収集開始
10：20	災害対策本部会議① 人的被害、営業不可店舗、配送状況、建物被害、インフラ状況等確認 被災店への人的応援体制の決定、翌日営業や営業開始の時期の検討
15：00	災害対策本部会議② 被災店舗の詳細情報の確認・対応状況、インフラ状況等確認し対応協議
17：30	災害対策本部会議③ 営業店災害対応商品状況、被災店舗の翌日営業の可否、本部宿泊対応要否

GRIガイドライン対照表

「平和堂CSR報告書2019」の編集にあたり、NGO団体GRI（Global Reporting Initiative）が発行する企業の持続可能性に関する報告書の国際的なガイドライン「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参考にしています。
※報告している項目のみを抜粋して掲載しています。

一般開示事項

項目	指標	該当項目
組織のプロフィール		
102-1	a. 組織の名称	http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-2	a. 組織の事業活動に関する説明 b. 主要なブランド、製品、およびサービス。特定の市場で販売が禁止されている製品またはサービスがあれば、その説明を含める	http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-3	a. 組織の本社の所在地	http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-4	a. 組織が事業展開している国の数、組織が重要な事業所を有している国、報告書中に記載しているテーマに特に関連のある国の名称	http://www.heiwado.jp/profile/g_top.html
102-5	a. 組織の所有形態や法人格の形態	http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-6	a. 参入市場（次の事項を含む） i. 製品およびサービスを提供している地理的な場所 ii. 参入セクター iii. 顧客および受益者の種類	http://www.heiwado.jp/profile/g_top.html
102-7	a. 組織の規模（次の事項を含む） i. 総従業員数 ii. 総事業所数 iii. 純売上高（民間組織について）、純収入（公的組織について） iv. 株主資本および負債の内訳を示した総資本（民間組織について） v. 提供する製品、サービスの量	http://www.heiwado.jp/ir/jigyo_top.html
102-8	a. 雇用契約（正社員と臨時雇用者）別、男女別の総従業員数 b. 雇用契約（正社員と臨時雇用者）別、地域別の総従業員数 c. 雇用の種類（常勤と非常勤）別、男女別の総従業員数 d. 組織の活動の相当部分を担う者が、従業員以外の労働者であるか否か。該当する場合、従業員以外の労働者が担う作業の性質および規模についての記述 e. 開示項目 102-8-a、102-8-b、102-8-c で報告する雇用数に著しい変動（例えば観光業や農業における雇用の季節変動）があれば報告する f. データの編集方法についての説明（何らかの前提があればそれも含める）	多様な人材の雇用（P27）
102-10	a. 組織の規模、構造、所有形態、またはサプライチェーンに関して発生した重大な変更。例えば、 i. 所在地または事業所の変更（施設の開設や閉鎖、拡張を含む） ii. 株式資本構造の変化、その他資本の形成、維持、変更手続きの実施による変化（民間組織の場合） iii. サプライヤーの所在地、サプライチェーンの構造、またはサプライヤーとの関係の変化（選択や終了を含む）	（該当なし）
102-11	a. 組織が予防原則や予防的アプローチに取り組んでいるか。またその取り組み方	CSR マネジメント（P47-48）
102-12	a. 外部で作成された経済、環境、社会憲章、原則あるいはその他のイニシアティブで、組織が署名または支持したものの一覧	環境マネジメント（P39）
戦略		
102-14	a. 組織が予防原則や予防的アプローチに取り組んでいるか。またその取り組み方	トップメッセージ（P3-6）
倫理と誠実性		
102-16	a. 組織の価値観、理念および行動基準・規範についての記述	平和堂グループの価値創造（P1-2）
102-17	a. 組織内外に設けられている次の制度についての説明 i. 倫理的行為、合法行為や組織の誠実性について求められる助言を提供する制度 ii. 非倫理的行為または違法行為についての懸念や、組織の誠実性に関する事項の通報に対処する制度	CSR マネジメント（P47-48）
ガバナンス		
102-18	a. 組織のガバナンス構造。最高ガバナンス組織の委員会を含む b. 経済、環境、社会的テーマに関する意思決定に責任を負っている委員会	CSR マネジメント（P47-48）
102-19	a. 最高ガバナンス組織から役員や他の従業員へ、経済、環境、社会的テーマに関して権限委譲を行うプロセス	CSR マネジメント（P47-48）
102-21	a. ステークホルダーと最高ガバナンス組織の間で、経済、環境、社会的テーマについて協議を行うプロセス b. 協議が権限移譲されている場合は、誰に委任されているか、最高ガバナンス組織への結果のフィードバックをどのように行っているか	CSR マネジメント（P47-48）
102-23	a. 最高ガバナンス組織の議長が組織の執行役員を兼ねているか否か b. 議長が執行役員を兼ねている場合、組織の経営におけるその者の役割と、そのような人事の理由	CSR マネジメント（P47-48）
102-26	a. 経済、環境、社会的テーマに関わる組織の目的、価値観、ミッション･ステートメント、戦略、方針、および目標の策定、承認、更新に際して、最高ガバナンス組織と役員が果たす役割	CSR マネジメント（P47-48）
102-30	a. 経済、環境、社会的テーマに関わる組織の目的、価値観、ミッション･ステートメント、戦略、方針、および目標の策定、承認、更新に際して、最高ガバナンス組織と役員が果たす役割	CSR マネジメント（P47-48）
102-32	a. 組織のサステナビリティ報告書の正式なレビューや承認を行い、すべてのマテリアルなテーマが取り上げられていることを確認する機能を果たしている最高位の委員会または役職	第三者意見（P54）
102-33	a. 最高ガバナンス組織に対して重大な懸念事項を通知するために設けられているプロセス	CSR マネジメント（P47-48）
102-34	a. 最高ガバナンス組織に通知された重大な懸念事項の性質と総数 b. 重要な懸念事項の対処、解決のために使われた手段	（該当なし）
ステークホルダー・エンゲージメント		
102-40	a. 組織がエンゲージメントしたステークホルダー・グループの一覧	平和堂グループの価値創造（P1-2）
102-42	a. 組織がエンゲージメントするステークホルダーを特定・選定する基準	平和堂グループの価値創造（P1-2）
102-43	a. ステークホルダー・エンゲージメントを行うための組織のアプローチ方法。種類別、ステークホルダー・グループ別のエンゲージメント頻度を含む。また、行ったエンゲージメントが、特に報告書作成プロセスの一環として行ったものか否かを示す	公正・公平な取引の推進（P21） 読者とのコミュニケーション（P53）
102-44	a. ステークホルダー・エンゲージメントにより提起された主なテーマや懸念。次の事項を含む i. 組織がそれにどう対応したか（報告を行って対応したものを含む） ii. 主なテーマや懸念を提起したステークホルダー・グループ	地域の健康のために（P7-10） 公正・公平な取引の推進（P21） 読者とのコミュニケーション（P53）
報告実務		
102-45	a. 組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっているすべての事業体の一覧 b. 組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっている事業体のいずれかが報告書の掲載から外れていることはないか	http://www.heiwado.jp/ir/jigyo_top.html
102-46	a. 報告書の内容およびテーマのバウンダリーを確定するためのプロセスの説明 b. 組織が報告書の内容を確定する際、報告原則をどのように適用したかの説明	編集方針（P1）
102-47	a. 過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合、再記述の影響および理由	平和堂グループの価値創造（P1-2）、GRI 対照表（P49-52）
102-48	a. 過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合、再記述の影響および理由	（該当なし）
102-49	a. マテリアルなテーマおよびテーマのバウンダリーについて、過去の報告期間からの重要な変更	（該当なし）
102-50	a. 提供情報の報告期間	編集方針（P1）
102-51	a. 最新の発行済報告書の日付（該当する場合）	編集方針（P1）
102-52	a. 報告サイクル	編集方針（P1）
102-53	a. 報告書またはその内容に関する質問の窓口	編集方針（P1）
マネジメント手法		
103-1	a. 項目がマテリアルである理由の説明 b. マテリアルなテーマのバウンダリー。次の記述を含む i. どこで影響（インパクト）が発生するか ii. 影響に対する組織の関与。例えば、影響の直接または間接の原因が組織にあるか否か、組織がビジネス関係を通じて影響に直接結びついたか否か c. バウンダリーに関する特定の制約事項	平和堂グループの価値創造（P1-2） 編集方針（P1） 環境マネジメント（P39） https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html
103-2	a. 組織がそのテーマをどのようにマネジメントしているかの説明 b. マネジメント手法の目的に関する声明 c. マネジメント手法に次の要素が含まれている場合、各要素についての説明 i. 方針 ii. コミットメント iii. ゴールおよびターゲット iv. 責任 v. 経営資源 vi. 苦情処理制度 vii. 具体的な措置（プロセス、プロジェクト、プログラム、イニシアティブなど）	平和堂グループの価値創造（P1-2） 編集方針（P1） 環境マネジメント（P39） https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html
103-3	a. 組織によるマネジメント手法の評価方法。次の事項を含む i. マネジメント手法の有効性を評価する仕組み ii. マネジメント手法の評価結果 iii. マネジメント手法に関連して調整を行った場合、その内容	平和堂グループの価値創造（P1-2） 編集方針（P1） 環境マネジメント（P39） https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html

経済

項目	指標	該当項目
経済パフォーマンス		
201-1	a. 創出、分配した直接的経済価値（発生主義ベースによる）。これには、組織の全世界の事業所について、次に一覧表示する基本要素を含める。データを現金主義で表示する場合は、その判断理由を次の基本要素に加えて報告する i. 創出した直接的経済価値：収益 ii. 分配した経済価値：事業コスト、従業員給与と福利、資本提供者に対する支払い、政府に対する支払い（国別）、コミュニティへの投資 iii. 留保している経済価値：「創出した直接的経済価値」から「分配した経済価値」を引いたもの b. 影響が著しいものについて、創出・分配経済価値を国、地域、市場レベルに分けて報告する。また「著しい」と判断する基準も報告する	環境会計（P40）
201-4	a. 組織が報告期間中に各国政府から受け取った財務援助の総額。報告には次の項目を含めること i. 減税および税額控除 ii. 補助金 iii. 投資奨励金、研究開発（R&D）助成金、その他関連助成金 iv. 賞金 v. 特許権等使用料免除期間 vi. 輸出信用機関（ECA）からの財務援助 vii. 金銭的インセンティブ viii. その他、事業所が政府から受け取った財務利益、または受け取る予定の財務利益 b. 201-4-a の情報の国別内訳 c. 組織の株式保有構造における政府出資の有無、出資割合	（該当なし）
間接的な経済的影響		
203-1	a. 重要なインフラ投資や支援サービスを展開した範囲 b. コミュニティや地域経済に与えている影響、または与えると思われる影響。プラスとマイナス双方の影響を含む（該当する場合） c. 当該投資、サービスが商業目的のものか、現物支給するものか、無償で実施するものかを報告する	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
203-2	a. 組織が与える著しい間接的な経済的影響（プラスおよびマイナス）と特定された事例 b. 外部のベンチマークやステークホルダーの優先事項（国内および国際的な基準、協定、政策課題など）を考慮した場合の間接的な経済的影響の「著しさ」	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
腐敗防止		
205-2	a. ガバナンス組織メンバーのうち、腐敗防止に関する組織の方針や手順の通達を行った者の総数と比率 (地域別に) b. 従業員のうち、腐敗防止に関する組織の方針や手順の通達を行った者の総数と比率 (従業員区分別、地域別に) c. ビジネスパートナーのうち、腐敗防止に関する組織の方針や手順について通達を行った者の総数と比率 (ビジネスパートナー種類別、地域別に)。腐敗防止に関する組織の方針や手順が、その他の個人または組織に伝達されているかどうかを記述する d. ガバナンス組織メンバーのうち、腐敗防止に関する研修を受講した者の総数と比率を、地域別に報告する e. 従業員のうち、腐敗防止に関する研修を受講した者の総数と比率 (従業員区分別、地域別に)	CSR マネジメント（P47-48）
205-3	a. 確定した腐敗事例の総数と性質 b. 確定した腐敗事例のうち、腐敗を理由に従業員を解雇または懲戒処分したものの総数 c. 確定した腐敗事例のうち、腐敗関連の契約違反を理由にビジネスパートナーと契約破棄または更新拒否を行ったものの総数 d. 報告期間内に組織または組織の従業員に対して腐敗に関連した訴訟が提起されている場合、その事例と結果	（該当なし）
206-1	a. 組織の関与が明らかとなった反競争的行為、反トラスト法違反、独占禁止法違反により、報告期間中に法的措置を受けた事例（終結しているもの、していないもの）の件数 b. 法的措置が終結したものについては、結果（決定や判決を含む）の主要点	（該当なし）

環境

項目	指標	該当項目
原材料		
301-1	a. 組織が報告期間中に主要製品やサービスの生産、梱包に使用した原材料の重量または量の合計。次の分類により報告する i. 使用した再生不能原材料 ii. 使用した再生可能原材料	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
301-2	a. 組織の主要製品やサービスの生産に使用したリサイクル材料の比率	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
301-3	a. リユース・リサイクルされた製品と梱包材の比率。製品区分別に報告する b. 本開示項目のデータ収集方法	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
エネルギー		
302-1	a. 組織内における非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量 (ジュールまたはその倍数単位 (キロ、メガなど) による)。使用した燃料の種類も記載する b. 組織内における再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量（ジュールまたはその倍数単位による）。使用した燃料の種類も記載する c. 下記の総量（ジュール、ワット時、またはその倍数単位による） i. 電力消費量 ii. 暖房消費量 iii. 冷房消費量 iv. 蒸気消費量 d. 下記の総量（ジュール、ワット時、またはその倍数単位による） i. 販売した電力 ii. 販売した暖房 iii. 販売した冷房 iv. 販売した蒸気 e. 組織内におけるエネルギー総消費量（ジュールまたはその倍数単位による） f. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール g. 使用した変換係数の情報源	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
302-4	a. エネルギー消費の削減および効率化の取り組みによる直接的な結果としてエネルギー消費量が削減できた場合、その削減量（ジュールまたはその倍数単位（キロ、メガなど）による） b. 削減したエネルギーの種類（燃料、電力、暖房、冷房、蒸気、またはこの全部） c. エネルギー消費削減量の算出に使用した基準（基準年、基準値など）と、その基準選定の論理的根拠 d. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html

GRIガイドライン対照表

項目	指標	該当項目
エネルギー		
302-5	a. 販売する製品およびサービスが必要とするエネルギーの報告期間内におけるエネルギー削減量（ジュールまたはその倍数単位（キロ、メガなど）による） b. エネルギー消費削減量の算出に使用した基準（基準年、基準値など）、および基準選定の論理的根拠 c. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
水		
303-1	a. 水源からの総取水量。次の水源別内訳による i. 地表水（湿地、河川、湖、海などからの水を含む） ii. 地下水 iii. 組織が直接貯めた雨水 iv. 他の組織からの廃水 v. 地方自治体の水道や他の公営・民間水道施設 b. 使用した基準、方法、前提条件	環境マネジメント（P39） 環境会計（P40）
大気への排出		
305-1	a. 直接的（スコープ 1）GHG 排出量の総計（CO_2 換算値（t-CO_2）による） b. 計算に用いたガス（CO_2、CH_4、N_2O、HFC、PFC、SF_6、NF_3、または全部） c. 生物由来の CO_2 排出量（CO_2 換算値（t-CO_2）による） d. 該当する場合、計算の基準年（以下の項目を含める） i. その基準年を選択した根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 e. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数（GWP）、GWP 情報源の出典 f. 排出量に関して選択した連結アプローチ（株式持分、財務管理、経営管理） g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
305-2	a. ロケーション基準の間接的（スコープ 2）GHG 排出量の総計（CO_2 換算値（t-CO_2）による） b. あてはまる場合には、マーケット基準の間接的（スコープ 2）GHG 排出量の総計（CO_2 換算値（t-CO_2）による） c. データがある場合には、総計計算に用いたガス（CO_2、CH_4、N_2O、HFC、PFC、SF_6、NF_3、または全部） d. 該当する場合、計算の基準年（以下の項目を含める） i. その基準年を選択した根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 e. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数（GWP）、GWP 情報源の出典 f. 排出量に関して選択した連結アプローチ（株式持分、財務管理、経営管理） g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
305-5	a. 排出量削減活動を実施した結果、直接的な成果として達成した GHG 排出削減量（CO_2 換算値（t-CO_2）による） b. 計算に用いたガス（CO_2、CH_4、N_2O、HFC、PFC、SF_6、NF_3、または全部） c. 基準年または基準値、およびそれを選択した根拠 d. GHG 排出量削減となったスコープ。直接的（スコープ 1）、間接的（スコープ 2）、その他の間接的（スコープ 3）のいずれか e. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-40） http://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
排水および廃棄物		
306-2	a. 有害廃棄物の総重量（次の処分方法を用いている場合には、この処分方法別に内訳を提示） i. リユース ii. リサイクル iii. 堆肥化 iv. 回収（エネルギー回収を含む） v. 焼却（大量燃焼） vi. 深井戸注入 vii. 埋め立て viii. 現場保管 ix. その他（詳細を記述） b. 非有害廃棄物の総重量（次の処分方法を用いている場合には、この処分方法別に内訳を提示） i. リユース ii. リサイクル iii. 堆肥化 iv. 回収（エネルギー回収を含む） v. 焼却（大量燃焼） vi. 深井戸注入 vii. 埋め立て viii. 現場保管 ix. その他（詳細を記述） c. 廃棄物処分方法の判定方法 i. 自ら処分している場合または直接確認した場合 ii. 廃棄物処分請負業者から提供された情報による場合 iii. 廃棄物処分請負業者からの報告がない場合	環境マネジメント（P39） 環境会計（P40） https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html
306-3	a. 記録した重大な漏出の総件数と総漏出量 b. 組織の財務報告書で報告している漏出のそれぞれにつき、次の追加情報 i. 漏出場所 ii. 漏出量 iii. 次の分類による漏出物。油漏出物（土壌または水面）、燃料漏出物（土壌または水面）、廃棄物の漏出（土壌または水面）、化学物質の漏出（多くは土壌または水面）、その他（詳細を記述） c. 重大な漏出のインパクト	（該当なし）
306-4	a. 次の各事項の総重量 i. 輸送された有害廃棄物 ii. 輸入された有害廃棄物 iii. 輸出された有害廃棄物 iv. 処理された有害廃棄物 b. 国際輸送された有害廃棄物の割合 c. 使用した基準、方法、前提条件	（該当なし）
環境コンプライアンス		
307-1	a. 環境法規制の非遵守で被った高額の罰金や罰金以外の制裁措置（下記の観点による） i. 高額罰金の総額 ii. 罰金以外の制裁措置の総件数 iii. 紛争解決メカニズムに提起された事案 b. 法規制に対して組織の違反が皆無の場合は、その旨を簡潔に述べるだけでよい。	（該当なし）

社会

項目	指標	該当項目
雇用		
401-1	a. 報告期間中における従業員の新規雇用の総数と比率（年齢層、性別、地域による内訳） b. 報告期間中における従業員の離職の総数と比率（年齢層、性別、地域による内訳）	平和堂の CSR 活動（P11-40）
401-3	a. 育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数（男女別） b. 育児休暇を取得した従業員の総数（男女別） c. 報告期間中に育児休暇から復職した従業員の総数（男女別） d. 育児休暇から復職した後、12 ヶ月経過時点で在籍している従業員の総数（男女別） e. 育児休暇後の従業員の復職率および定着率（男女別）	平和堂の CSR 活動（P11-40）
労働安全衛生		
403-2	a. すべての従業員に対する業務上傷害の種類、業務上傷害率（IR）、業務上疾病率（ODR）、休業日数率（LDR）、欠勤率（AR）、および業務上の死亡者数（次の内訳による） i. 地域 ii. 性別 b. 業務または職場が組織の管理下にあるすべての労働者（従業員を除く）に対する業務上傷害の種類、業務上傷害率（IR）、および業務上の死亡者数（次の内訳による） i. 地域 ii. 性別 c. 災害統計の記録、報告に適用する規則体系	平和堂の CSR 活動（P11-40）
研修と教育		
404-2	a. 従業員のスキル向上のために実施したプログラムの種類、範囲や、提供した支援 b. 継続的な雇用適性を促がすために提供した移行支援プログラムと、定年退職や雇用終了マネジメント	平和堂の CSR 活動（P11-40）
ダイバーシティと機会均等		
405-1	a. 組織のガバナンス組織に属する個人で、次の多様性区分に該当する者の比率 i. 性別 ii. 年齢層：30 歳未満、30 歳～ 50 歳 、50 歳超 iii. 該当する場合には、その他の多様性指標（例えばマイノリティ、社会的弱者など） b. 次の多様性区分の従業員区分ごとの従業員の比率 i. 性別 ii. 年齢層：30 歳未満、30 歳～ 50 歳 、50 歳超 iii. 該当する場合には、その他の多様性指標（例えばマイノリティ、社会的弱者など）	多様な人材の雇用（P27）
結社の自由と団体交渉		
407-1	a. 労働者の結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー。次の事項に関して i. 事業所（製造工場など）およびサプライヤーの種類 ii. リスクが生じると考えられる事業所およびサプライヤーが存在する国または地域 b. 結社の自由や団体交渉の権利行使を支援するため、組織が報告期間中に実施した対策	（該当なし）
児童労働		
408-1	a. 次の事例に関して著しいリスクがあると考えられる事業所およびサプライヤー i. 児童労働 ii. 年少労働者による危険有害労働への従事 b. 児童労働に関して著しいリスクがあると考えられる事業所およびサプライヤー（次の観点による） i. 事業所（製造工場など）およびサプライヤーの種類 ii. リスクが生じると考えられる事業所およびサプライヤーが存在する国または地域 c. 児童労働の効果的な根絶のために報告期間中に組織が実施した対策	（該当なし）
強制労働		
409-1	a. 強制労働に関して著しいリスクがあると考えられる事業所およびサプライヤー。次の事項に関して i. 事業所（製造工場など）およびサプライヤーの種類 ii. リスクが生じると考えられる事業所およびサプライヤーが存在する国または地域 b. あらゆる形態の強制労働を撲滅するために報告期間中に組織が実施した対策	（該当なし）
先住民族の権利		
411-1	a. 報告期間中に、先住民族の権利を侵害したと特定された事例の総件数 b. 事例の状況と実施した措置（次の事項を含める） i. 組織により確認された事例 ii. 実施中の救済計画 iii. 実施済みの救済計画と、定期的な内部マネジメント・レビュー・プロセスにより確認された結果 iv. 措置が不要となった事例	（該当なし）
人権アセスメント		
412-1	a. 人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率（国別に）	（該当なし）
地域コミュニティ		
413-1	a. 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラム（次のものを活用したものなど）を実施したものの比率： i. 一般参加型アプローチに基づく社会影響評価（ジェンダー影響評価を含む） ii. 環境影響評価および継続的なモニタリング iii. 環境および社会影響評価の結果の公開 iv. 地域コミュニティのニーズに基づく地域コミュニティ開発プログラム v. ステークホルダー・マッピングに基づくステークホルダー・エンゲージメント計画 vi. 広範なコミュニティ協議委員会や各種プロセス（社会的弱者が参画するもの） vii. 影響に対処するための労使協議会、職業安全衛生委員会、その他従業員代表機関 viii. 正式な地域コミュニティ苦情処理プロセス	平和のハト（P29-40） 平和堂財団の活動（P45-46）
413-2	a. 地域コミュニティに対して著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）を及ぼす事業（次の事項を含む） i. 事業所の場所 ii. 事業の及ぼす著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）	（該当なし）
サプライヤーの社会面のアセスメント		
414-2	a. 社会的インパクト評価の対象としたサプライヤーの数 b. 著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的）があると特定したサプライヤーの数 c. サプライチェーンで特定した著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的） d. 著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的）があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、改善の実施に同意したサプライヤーの割合 e. 著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的）があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、関係を解消したサプライヤーの割合およびその理由	（該当なし）
顧客の安全衛生		
416-2	a. 報告期間中に、製品やサービスについて発生した安全衛生インパクトに関する規制および自主的規範の違反事例の総件数。次の分類による i. 罰金または処罰の対象となった規制違反の事例 ii. 警告の対象となった規制違反の事例 iii. 自主的規範の違反事例 b. 規制および自主的規範への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる	（該当なし）
マーケティングとラベリング		
417-3	a. マーケティング・コミュニケーション（広告、宣伝、スポンサー業務など）に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数。次の分類による i. 罰金または処罰の対象となった規制違反の事例 ii. 警告の対象となった規制違反の事例 iii. 自主的規範の違反事例 b. 規制および自主的規範への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる	（該当なし）
社会経済面のコンプライアンス		
419-1	a. 社会経済分野の法律や規定の違反により受けた相当額以上の罰金および罰金以外の制裁措置（次の事項に関して） i. 相当額以上の罰金の総額 ii. 罰金以外の制裁措置の総件数 iii. 紛争解決メカニズムに提起された事案 b. 組織による法規制への違反が皆無の場合は、その旨を簡潔に述べるだけでよい c. 相当額以上の罰金および罰金以外の制裁措置を受けた経緯	（該当なし）

読者とのコミュニケーション

CSR活動を通して“奉仕”と“創造”を実践していきます。

「平和堂 CSR 報告書 2018」に対し、844名の読者からアンケートの回答をいただきました。

2018年度も、引き続き平和堂の経営理念である「5つのハトのお約束」を重点課題と特定し、「奉仕のハト」「創造のハト」「感謝のハト」「友愛のハト」「平和のハト」の5項目に章立てしました。

また、トップメッセージのテーマでもあった「地域密着のライフスタイル総合（創造）企業の実現にむけて」について、巻頭特集で具体的な事例を掲載しました。

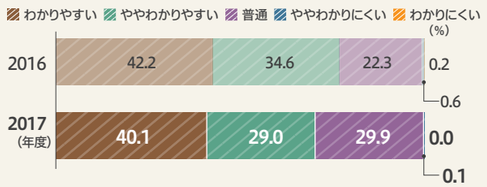
CSR報告書2018

トピックス　読者のお声

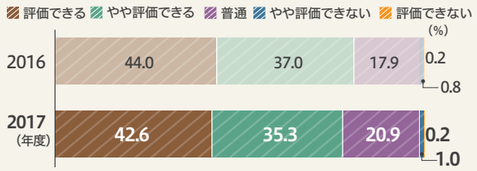
- 様々な活動をしているのが分かりやすく書いてありました。特に地域に密着した取組みが店外でも行われていることがよく分かりました。
- 子ども食堂の支援をはじめ、子ども達が楽しく参加できる活動があるといいと思います。
- クッキングサポートお仕事体験に期待しています。
- 参加した方の生の声などを多く取り上げてほしいです。
- 地域との共同事業など、貢献されている情報がもう少しあるといいと思います。
- 地元らしさの追求で魅力あるスーパーを目指してほしいです。
- 昨今の食品ロスの問題について、平和堂もしっかり取り組んでもらいたいと思いました。

アンケート集計結果

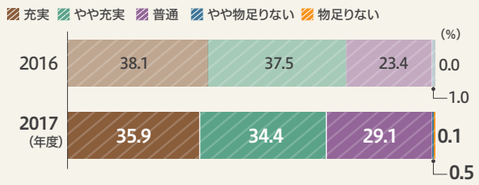
わかりやすさ



平和堂のCSR活動への評価



内容の充実度



印象に残った、または興味をもたれた内容

ベスト5

①トップメッセージ（321人）
②安全・安心な商品の提供（312人）
③創業60周年　よりよい品をお客様へ（268人）
④地域密着ライフスタイル総合企業を目指して（267人）
⑤地元企業との協賛（263人）

（回答者数844名　内訳：社員787名、学生・お客様など21名、株主・投資家様4名、お取引先様9名、その他23名）
※数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

第三者意見

変わる背景

企業にとっての社会貢献とは何なのか、このテーマの重要性が改めて問われる時代が訪れています。こうした方面の採点表のような仕組みがいろいろと考案され、何をどこまで達成したのかが毎日のように検証されるようになって来たのですが、共通しているのは環境と社会という大きな課題への対応、その実現のための内部組織の強化改善がどうなのか、です。

そこには地球温暖化や男女の均等な地位向上などに代表される環境と社会開発をめぐる問題の捉え方が地球規模や世界規模にまで拡大し、それこそ人類の生存可能性が問われるにまでになったという背景があります。

しかし、企業にはそれぞれの設立目的がありますから採点表ばかりを気にしてアレもコレもと多くを並べるのは本末転倒で、企業としてのあり方に新しい角度からの調和が求められるようになったのも事実なのです。

平和堂としての姿勢

平和堂の新しい報告書のトップメッセージでは地域社会や取引先との協働のあり方と、そのための人材作りが大きな柱として掲げられています。全般的には昨年にスタートした「地域共創」の引き継ぎと、そのための基礎的な条件となる社内外を通じての人的ネットワークの強化が最優先事項に位置づけられている印象があります。

ベースを「人」に設定しつつ、メッセージは静かなトーンで続き「平和堂ならではの価値の提供」を鮮明にして閉じられます。ここには ESG や SDGs、更には ISO26000 といった用語が登場することはありません。これは近時に見られる同様の報告書としてはとても少数派に思われるのですが、こうした国際的な仕組みとどう対峙するのかについて一言でも聞かせていただきたいところです。

滋賀県立大学 名誉教授
土屋 正春

プロフィール
1943年生まれ。滋賀県立大学環境科学部長、副学長を経て現在は名誉教授。水資源・環境学会会長、公益財団法人千里リサイクルプラザ研究所所長・総括主担研究員、一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク名誉会長

続いて具体的な施策としてあげられているのは、顧客と地域を対象としたきめ細かなサポート体制、提供商品の新しい意味づけ、従業員小集団活動による意欲の喚発、若い才能への継続的な支援などです。これら平和堂スタイルとでも呼べるほどのパレード風の誌面づくりには独特の親しみやすい雰囲気に育ってきています。多彩な人物が多様な視点で語るこうした構成は読み手との距離を縮める大きな効果があるため、抑制気味の巻頭言とその後に続くこれらの鮮烈なページの展開はよくリンクし、現在での調和のあり方をよく支えているのではないでしょうか。

さらなる深化を

こうした具体的なプロジェクト面と基本的なポリシー面との関係をより深く考えるためにも、42ページの今後の課題として記載された項目である「長期環境ビジョン策定」および「SDGsなど国際イニシアチブへの対応」は、平和堂が選択と集中の目標をどう追求するのかに直接関係するものですから、つぎに目指す将来的な調和点の設計作業には大いに期待するものです。

第三者意見を受けて

専務取締役管理本部長　夏原 行平

「平和堂 CSR 報告書 2019」への評価と貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。全体の紙面構成及び各活動内容について、一定の評価をいただきました。今後も「地域共創」をキーワードに、さらに活動内容を充実させてまいります。

また、平和堂グループ憲章「全従業員の物心両面の幸福（しあわせ）を追求するとともに、お客様と地域社会に貢献し続ける企業となる」の実現の為、近年世界的にも取組みが進んでいる ESG や SDGs などとの関わりについても深耕してまいります。

アンケート回答のお願い

「平和堂CSR報告書2019」をお読みいただきありがとうございました。今後も積極的にステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図りながら、より効果的な取組みや、より良いレポートづくりを進めていきたいと考えています。レポートについてのご意見やご感想また当社グループの取組みに関するご要望などございましたら、ぜひお聞かせください。

▶弊社ホームページ「平和堂 CSR 報告書」アンケート

アドレス　**https://mobile.heiwado.jp/csr/**

もしくは、平和堂ホームページ ➡ 環境・社会活動 ➡ CSR 報告書ページ から